明治二十三年十二月一日第三種郵便物認可（毎月一回
明治二十一年十二月二十八日内務省許可（廿日發行）

大正五年五月二十日發行

婦人衛生雜誌

第三百十一號

婦人衛生雜誌

第三百十八號目次

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

例會通知

來る六月三日(第一土曜日)午後一時より神田區一ツ橋通り共立女子職業學校內に於て本會例會を開き左の講話有之候間可成御知友御誘ひ合はせ御來會被下度候也

一、日焦の原因及び豫防に就て

醫學博士　高橋順太郎君

一、夏の衛生

醫學士　山中敏樹君

大正五年五月

私立大日本婦人衛生會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一年を送らんと皆ともに希はざるはあらじされども其身健康にあらざれは此生活を得んといと易からすこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も／＼衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして皆吾等婦人のもつばら掌るべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合も相尋て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは眞に喜ばしきことなりされども夫の衛生の事に至りては更に注意を惹かざるもの、如くまことに口惜しきことなり因て頃日同志の婦人集ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月一回集會を開き學識經驗ある人々に衛生上諸般の講義演説談話を乞ひ互に相研究し尚之を筆記して冊子を編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに盡すあらんとす茲に本會旨趣の梗概を敍べて廣く江湖の諸姉妹に告げ其賛成を仰ふぐことしかり

明治二十年十一月　首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則摘要

（明治廿二年十二月改正）

第一條　目的　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するにあり●第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く●第三條　本會會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得●第四條　入會の節は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員章を交付す（交付手續卷末に詳なり）入會後轉居等あるときは速に事務所に報知せらるべし●第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三拾錢以上、通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むる者とす●第六條　男子にして本會の旨趣を賛成する者は之を賛成員とす其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に賛成員たることを望みたる節は役員の協議に依り無會費とすることあるべし●第七條　會員は本會に於て毎月發刊する雜誌を無料にて受ることを得●第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より通知せらるべし但既納の會費は總て返戻せす●第九條　本會に推薦員を置き其中より總裁一名を奉じ皇族の他殿下に請出るものとす●第十條　本會に左の役員を置く會長一名、副會長一名、幹事七名、評議員三十名、書記若干名●第十一條　會長副會長幹事評議員は毎年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選擧し書記は幹事の推薦に依り會長之を命す但書記は都合に由り會員外の婦人若くは男子に託することあるべし●第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命を受け諸記錄雜務を掌る幹事の分課を設け第一會計、第二編輯出版、第三庶務とす●第十三條　臨時指名委員の件●第十四條　會長副會長幹事評議員の任期は二ヶ年とす滿期再選することを得若し任期中缺員を生するときは次點者を以て補缺す●第十五條　會長副會長幹事評議員は無給とす書記には相當の報酬を給す●第十六條　集會は例會總會及評議員會とす集會は八九月を除くの外毎月一回とし總會は三月に之を開く若し急要の事あるときは臨時に總會を開くことあるべし又春秋二回會員相互親睦の爲め園遊會を開くことあるべし●第十七條　毎會學識經驗ある人々に衛生上の講義演説談話を囑托し會員をして隨意聽講せしむるものとす●第十八條　會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會々場に誘致し講義演説等を傍聽せしむることを得（但衣服は總て質素たるべき事）●第十九條　講義演説等は男子の傍聽を禁す●第二十條　規則の改正其他重要の件議定のこと●第廿一條　毎年三月總會に於て會計の收支決算並に庶務の概要會員の増減等を報告すべし●第廿二條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす●第廿三條　會計の收支は總て會計擔任の幹事檢印を要するものとす●第廿四條　會計は一ヶ年毎に決算し翌年三月總會に報告すべし

支會●第廿五條　地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得●第廿六條　本會々員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載して申出べし爾後員數增減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報告すべし本會會員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付することを止め支會の規定に依るものとす●第廿七條　支會は支會限りの會員を置くことを得●第廿八條　本會の雜誌は支會に回送すべきを以て其會費を支會より本會に送付すべし支會限りの會員にして雜誌を請求する者に就きても亦同じ●第廿九條　支會は集會の都度其状況を本會に報告すべし

●雜件

第三十條　本會は毎月一回雜誌を發刊し之を會員に配附すべし●第卅一條　會員又は會員外の者にして金品若くは其他物品等を本會に寄附する者ある時は本會々長の名を以て謝状を贈り寄附者の姓名及品目を雜誌に登錄し尚本會雜誌を以て報告すべし●第卅二條　會費金は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送發として別に返信料を添へらるべし（郵券込一割增）●第卅三條　會費は東京府下に限り毎月領收人を差出すべし地方會員は總て前金とし振替にて口座番號東京一○六○○番本會事務所宛に振出しあるべし●第卅四條　會員中若し本會の障碍となるべき所爲ある者又は屢々會費を督促するも納付せざる者あるときは會長評議員會の決議を經て除名し若しくは廣告することあるべし

東京市麴町區富士見町二丁目卅二番地　私立大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

講演

分娩及産褥期の注意

醫學士　河島右一

今日は分娩及産褥期の注意と云ふ題でお話致さうと思ひます、それで此問題を出しましたのは近來特別に感じた事があつて此問題を掲げた譯であつて、是までいろ〱諸先生が分娩産褥期等の事に就てお話があつて學問上の意味を皆さんも既に御承知のことであらふと思ふ次第でありますが、今日は學問上と云ふ事以外に少しく注意して戴かぬければならぬ點があるので其點をお話して置くのであります、それ故に本問題を選んだのですが、此話に對して特に自分が感じた事は、昨年の末の統計を觀ると日本國中で分娩及産褥期で亡くなつた婦人が十萬人あると云ふ此十萬人と云ふことを自分が耳にした時に非常に驚いたのである、斯くの如く日本國中で十萬人の婦人が此分娩産褥期に亡くなられたと云ふことは是は啻に此婦人が十萬人亡くなられたと云ふばかりでなく、妊娠中であるからして其倍卽ち二十萬人の人が亡くなつて居る譯であり、又其方が未だ妊娠なさるべき時代であるから今後何人生まれるか分らない、それが此期に亡くなられると云ふ事は日本の人口繁殖の點から言ふと非常な損耗になつて來るのでありますから、是は餘程考へねばならぬ問題であるので是を救濟をして何うぞさう云ふ不幸を見ないやうにするには何うしても今日の婦人の方が此分娩産褥期に於ける注意の點に就て充分お心懸にならぬと云ふと矢張り是から先き十萬人が二十萬人にもならうかと云ふ事を氣遣つた次第であります。

で今此處に居らつしやる方々の中で既に分娩と云ふ事に就て御經驗の有る方もありませうし又年の若い方々は是から或る時期に於ては此經驗を履まなければならぬ方であるから特別に此事に就て注意して戴きたいと思ふのでありますが、本問題に對して先づ分娩と云ふ事と產褥と云ふ事の二つに區別してお話致します。

それで分娩と云ふ事に就ては種類が幾つもあるので、普通分娩と言へば妊娠十ケ月を經て分娩すると云ふことに考へられるけれどもが、それが單に妊娠と云ふのでなく、十ケ月目に生れるのでない、八ケ月、五ケ月、或は二ケ月位の妊娠で產れることがある、是は第一に流產と云ふものがあつて、此流產は何う云ふことの場合に此流產と云ふ名前を付けるかと言ふと妊娠五ケ月未滿に分娩をした事は是を流產と云ふので、それから其次に早產、是は五ケ月以上九ケ月迄の間に產れた者を早產と云ふので、普通滿十ケ月を經過して豫定の時期に產れた者を之を平產と云ふことになつて居る。

それで此流產と云ふ事の意味からして順々に一つ解いて言つて見たいと思ふ、で皆さんが所謂五ケ月以內に分娩をすると云ふのは一ケ月位月經閉止して居る場合もあり或は二ケ月位な場合もある、さうして五ケ月目に流產をする場合もある、是には其人其場合其時の身體の工合又受胎の經過に因ていろ〳〵變つて來る、で斯くの如く流產は何う云ふ原因で起きて來るかと云ふと、先づ一口に之を言ふて見ると妊娠と云ふものが恰度植木屋が植木を植ゑると同じことであつて、此植木屋が惡るい木を持つて來て庭に植ゑ、或は鉢に植ゑると云ふ其時に先づ第一持つて來る植木を選擇しなければならぬのであつて、それが枯れさうな植木を持つて來たならば何んな良い畑に植ゑても育たない、又之を種子から育てゝ行かうとするならば何んな良い畑に種子を蒔いても其種子が上手く良い種子でなかつたならば矢張り育が惡るい、又種子は非常に良い種子であり又植木の性質は

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

大變良いけれどもが其畑が惡るかつたら矢張り育が惡るいので雙方揃はなかつたなら完全な植物にならない、それと同じ事で妊娠の場合――受胎してそれが完全でなければならぬ、それと同時に其胎兒が育つ地盤、子宮の組織が完全でなければ育つ譯のものでない、それが一朝妊娠して一ケ月なり或は二ケ月なりて流産すると云ふのは何うしても植物で云ふと種子に異常があり、或は地盤に異常があるものと考へなければならぬ、で斯くの如き流産の場合に方つて能く檢査して見ると何う云ふ譯で流産を爲たと云ふ事が解るのである、で其原因として何う云ふ風なものが普通多いかと云ふ事も妊娠月數に由つて判斷をすることも出來る、世間で能く斯う云ふ事があるがそれは毎回々々流産をして困る、癖になつて困ると云ふ斯う云ふ風な事を聞きます。

でさう云ふ風な場合には何う云ふ原因から來たものだらうかと云ふと、先づ子宮は骨盤腔に殆んど垂直形に維持して居るのでそれが或る病的の變化の爲め子宮が左に歪むとか或は右に寄るとか又後屈――後に引繰り返つて居るとか或は前に寄過て居るとか或は子宮全體が後に傾いて居るとか云ふやうな變化を來した場合流産をする、で醫師の關係から言ふと何う云ふ風な場合が一番多いかと云ふと子宮の後屈が一番多い、此習慣性流産と云ふやうなものゝ場合には特別に此の子宮後屈と云ふ事が重きに置かれてある、此子宮後屈の場合の流産は何う云ふ風な狀態で又何ケ月位に起り易いかと云ふと大抵三ケ月乃至四ケ月目位に起る、で其理由は何う云ふ風な事から來るかと言ふと子宮が先づ(手を以つて示す)斯う云ふ風な位置であるのが後ろに引繰り返つて居る處に受胎して妊娠の月數で段々大きくなつて來る、普通の子宮なら骨盤の中に入つて中空にぶら下つて居つてさうして漸々大きくなつて居る、骨盤の横の下に在るので斯うなつて居るべきものが(手を以て示す)斯うなつて居る儘で大きくなつても差支ないが子宮が自然に後屈して居ると後から骨が出て居るものだか

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ら其刺戟の爲に分娩期に入つて流産して仕舞ふ、で流産を一遍お行りになつたとか二遍お行りになつたとか言ふお方は子宮の狀態が元とは大に變る、變るけれどもが是は正狀普通の位置であつたなら左程でもないが、妊娠すると漸々後に行つて仕舞ふから矢張り流産後に於ても子宮の形狀は依然として流産前の位置形狀を保つて居る、それが又或る刺戟があつて分娩をする矢張り四ヶ月位の後になつて習慣性流産をする場合がある、是等は皆子宮の形狀位置からして起る流産の原因である。

それから胎兒が妊娠期中に病氣をして發育が惡るい所謂植物の種子が地中に於て種々の障碍の爲に育ちが惡るい、さうすると發育が惡くなつて來ると胎兒が中で生存することが困難であるから結局胎兒が亡くなつて仕舞ふ、所謂種子が腐つて仕舞ふさうすれば中に居る譯に行かぬので普通の分娩と同じき經過を以て外に出て來る斯う云ふ事になる、是は胎兒の發育の惡い爲に胎兒が居ることが出來なくなつてとう〳〵流産をすると云ふことになる。

第三には植物で言ふ地盤が惡い、子宮の内膜に異狀がある、胎盤が内膜の一部に形成されて漸々其組織が發育して來ることになる、それが元來の子宮の内膜に異狀があると云ふと胎盤に所謂植物の根が地盤の中に充分に入る事が出來ないと等しく胎盤の子宮内膜に附著して居る部分からしてそれを深く入れるのに困る、其處で植物がそれを充分に地中に入り込む事が出來ないと同じやうな風に胎盤と粘膜との間が密著して居ないから、其爲に子宮に僅かな刺戟を與へても流産をする、恰度地盤に充分に深く入つて居ない植物が僅な雨や風で倒れるのと同じやうに容易く流産をする場合がある、さう云ふ風に胎兒と子宮粘膜との關係で起る場合がある。

次の原因としては黴毒性所謂世間で毒の爲に流産をすると云ふので、即ち毒と云ふのは黴毒である、其黴毒の爲に起るものがあつてそれは胎兒が子宮内に在つて受胎後に起る場合と云ふものは比較的少ない

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

大抵妊娠をする其時に其兩親からして黴毒を受けるのである、それであるから父の方に黴毒が無くつても母の方に有ると其胎兒は黴毒を受ける、でおるから妊娠する時に感染をするので是は同じ流產をすると云ふ場合でも他の場合にはいろ／＼な説明が付く又實際症狀が表はれるけれども黴毒の場合であると外に症狀が現はれないで流產を爲る、其胎兒は病氣になつて居るので此黴毒から來た流產と云ふものは妊娠四ヶ月位乃至五ヶ月位までに來る場合もあるが時とすると七ヶ月も八ヶ月も經つて早產する場合もある、又時に據ると臨月まで持つて平產を爲る場合もある、けれども平產をしても其子供は非常に弱かつたりして或は生後一ヶ月で亡くなるとか云ふ風で普通の平產と同様の風には行かない、でさう云ふ風な種々な流產に原因があるので是れは病的の問題であります、で子宮其物に異狀があるとか病的の原因で流產をする事もあるが其外に又流產を起す一つの場合がある、それは自然と流產を爲るのではなくつて流產をさせなければならない場合があつてお醫者が流產を行らせる、所謂人工流產をさせなければならぬ場合がある。

是は何う云ふ場合に流產をさせなければならぬかと言ふと第一は妊娠二ヶ月或は三ヶ月頃に惡阻が起る是は世間で惡阻々々と輕く視て居るのですが、惡疽と云ふ名前の附いて居る「ツハリ」――惡阻と云ふのは普通の「ツハリ」と違つて居る、普通の「ツハリ」は物を食べると胸が惡くなるとか時々吐くとか頭痛がすると云ふ位なことで濟むが、惡阻となると普通の世間で言ふ「つはり」より非常に烈しい、物を食べても食べられないで吐すとか又た吐さぬ間に胸が惡くなつて頭痛がするとか動悸が打つとか眩暈がするとかして殆んど一週間も二週間も絶食して居る、其爲に全身が月を逐うて衰弱して來る、斯う云ふ風な狀態になつて來る、其狀態が長く續くと全身に衰弱を來して遂に死の轉歸を取ると云ふ事が屢々ある、之を防ぐのには一種の人工流產と云ふものをしなけ

ればならぬ、それで此人工流產をすると云ふ理由は何うであるかと言ふと惡阻になると胎兒が子宮內にある一種の病的現象で之を起すのであるから親の體には代へられぬと云ふので已むを得ず人工流產を爲るのである、で此人工流產の必要に就て皆さんは特に注意しなければならぬ事は——此惡阻と云ふ場合世間の言ふ「ツハリ」と言ふ場合には月が重なるに從つて癒るから特別の注意をしないでも治るのであるが其惡阻になつて來るとさう云ふ譯には行かないのに阻は月が重なれば癒るものであると云ふ考が頭にあるものだから十日や十五日位物を食はないでも是は直ぐに癒るからと言ふて放置して然程心配をしない場合がある其場合に專門の醫者がそれを診ると害があつて是は普通の阻と違ふ、是は吾々の言ふ惡阻と云ふものであつて之を其儘にして置くとさうどう母子共に死の轉歸を取ると云ふことになる甚だ危險であるから前に人工流產を行らぬければいけませぬと勸める、それでも其方はもう少し經てば治る

からと言うて成るたけさせないで置いて貰ひたいと言うてそれ程世間では危險でないと思うて診て貰ふにしても一日々々と延ばさせる、ところがお醫者の方では一方に其危險が日一日と迫つて來ると何うしても流產をしなければならぬ必要である、矢張りさう云ふ事で日は重るやうになつて一ケ月も二ケ月も經つても延ばしたがる、で醫者の方では日の經つ程に危險であるから流產を勸めても聞入れない、で等閑にして置く其內に妊娠の方は漸々衰弱する、斯う云ふ風に一ケ月も二ケ月も物を食はぬで居つたら餘程衰弱して居るけれども是は是非流產をして貰はぬと云ふと危ふいのでそんなに程經つて漸く決心を付ける、其時にお醫者は其方の要求に因つて流產を爲ることが出來るか出來ぬかと云ふと前に勸める場合に流產をさせるのなら然程骨も折れないのであるが其時には應じないで餘程後になつて流產をさして吳れと云ふやうな事になると醫者も大に困るで矢張りさう云ふ風であると流產をさせても生命は覺束なか

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

つたりする、折角良い時期に人工流産をさせやふと思つても聞入れないのでそれが爲に其術が無效になつて仕舞ふ事がある、是は醫者に取つては非常に遺憾に思ふ譯であつて其妊娠の方なり又家族の方なりがお醫者の言ふ時期にそれを承諾して貰へば不幸なる轉歸を取ると云ふことはないのである、それを一日延ばしにされると大變な不幸を後に遺さなければならぬのである、それであるから阻所謂惡阻と云ふ場合であつてお醫者が其惡阻の妊婦に對して人工流産をしなければならぬと云ふ斷定が定いたならば外の點に少しも頭を費ずしてお醫者の命令に從つて人工流産をして貰らふ、斯う云ふ事に注意して戴きたい、此時期を失つて遂に死の轉歸を取つたと云ふ譬は屢々聞かされる事がある、で斯うなると妊婦の方も不幸であり又お醫者の方でも眞に遺憾である、それ故適當の時期に用ゆる事が出來たならば非常に簡單なものであるから是だけは深く考へて其場合に遭遇したならば一も二もなくお醫者の命令に從つて治療を受けるやうにして戴きたいのである。

其次に申上げたいのは腎臟炎である、で妊娠すると能く體が腫れるとか或は特に脚が腫れるとか云ふことがある、此妊娠には腫れるのが附物であると云ふ考もあるけれども、是は妊娠が濟めば落付いて癒る此儘にして置けば宜いと言うて非常に輕く見られて居るけれどもお醫者の立場から言うと非常に危險な者で　腎臟炎なるものは妊娠中に屢々起るものであつて時とすればそれが少しも害が無くて濟む場合もあるけれども或る機會があると云ふと其腎臟炎が急劇な變化を來して來る、世間で言ふ痙攣——子癇と云ふて夢中になつて痙攣を起す病氣がある、其爲に母子共に生命を失はれるやうな場合がある、で此腎臟炎なるものが起つて來たら其場合に醫者の命令に從つて人工流産を行らなければいかない、で斯う云ふ斷定が付いたならば必ず命令に從つて人工流産を斷行すると云ふ事をしなければならぬ。

それから其次には結核性の疾患を有つて居る人が妊

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

娠して═妊娠前から結核がある者又妊娠してから結核に感染した人がある、さう云ふ場合であると云と妊娠月數が重るに從て結核が惡くなる、又特に産れる時に愈〻惡くなる傾向を持つて居る、是はお醫者に取つて非常に心配なのですからお醫者の命令に從つて人工流産をしなければならぬと云ふ斷定が付いたならば先張り其命令に從つて人工流産をさせなければならぬ、又其外心臟病と云ふ病、是は妊娠中に限らず他の場合でも非常に危險であるが是が妊娠中に合併して來ると非常な危險を來すものであるからしてお醫者の考で是は流産の價値ありと言ふたならば必ず是も斷行して行ると云ふ注意を拂はなければならぬ、で流産の原因としては先づさう云ふ風ないろ〳〵な場合があります、是は原因に於てはいろいろありますが流産の起つた場合であつたならば其症狀は何う云ふ風な症狀で來るかと云ふと何れの流産でも非常な出血をするものである、で此非常な出血をすると云ふ事が母體に大關係を有つて居るものので妊娠月數が少なければ少いだけ出血が多いのであつて月が重なつて來ると云ふと比較的出血が少くて濟むものである、妊娠二ケ月乃至三ケ月の頃に流産をすると云ふと非常に出血をする、時に據ると厠に行つて非常に出血をして殆んど出ることが出來ない、眩暈がして倒れると云ふやうな場合が屢〻あるで何う云ふ譯で月數が少なければ餘計に血が出るかと云ふと妊娠月數が進むに從つて血液の出るべき量がちやんと用意をされて居るが妊娠月數が少い時に出ると云ふと用意もされない血が出る所謂吾々の怪我をして其時に出る血と同じやうな血が大變出て來るのであるか、それが爲に非常に貧血を起して來るのである、是が流産に於ては非常な危險な場合である、其流産の場合に何う云ふ處置を取つたならば一番宜からうかと云ふと流産である、是は流産でなからうかと云ふ疑があつても═月經が閉止して二ケ月にもなつて突然出血した場合に是は流産であるとかなかつたとか云ふ事を直ぐ專門の醫者に付いて

適當の處置を執つて貰らうと云ふ事が必要である。若しもそれを一ヶ月二ヶ月位まで、是は月經と同樣な者で捨てゝ置いてそれが段々強くなつて終には死の轉歸を取ると云ふ場合がある、であるからさう云ふ場合には直に專門醫の指揮を仰いでも止めなければなりませぬ、妊娠二ヶ月或は三ヶ月と云ふ間は自分の方には妊娠であるかないかと云ふことを知るのが難ケしい、唯月經が止まつて居るだけで特別の症狀がない、其場合に妊娠と流産と云ふ事が解らぬから其爲に非常に困ることがある、大抵妊娠二ヶ月か三ヶ月になつて來ると阻と云ふものがある、で必ずしも其場合には流産と云ふ處置を懈らない必要がある。

で其次には黴毒性の流産と云ふものが――是は先程お話した通りに胎兒の關係からして流産をするものであるが是は防ぐことが今日は出來るやうになつて居る、黴毒性の習慣性流産と云ふものになると殆んど一年に二回も何うかすると三回も流産をする、流産が濟むと後直に妊娠する、妊娠すると直ぐ又流産をする回數で擧げると或は三年間に五遍も七遍もする場合がある、で是は今日では防ぐことが出來るので何う云ふ風な方法で防ぐことが出來るかと言うと是は前からもある驅黴法と云ふもので此驅黴法を行ふと胎兒に母體を通じて藥劑が達するさうしてそれを全治することが出來る、それであるから今日では流産と云ふものは――黴毒性流産は驅黴法を行へば是は防止めることが出來ると云ふことになつて居つて大變に今日では其法に就ては安全になつて居るで妊娠中に注射して貰ふとか或は驅黴法として貰らうとか云ふ事を好まぬ方がある、から其事が行はれぬこともあるけれども、がさう云ふ風な場合なぞも能く醫師の命令に從つて行れば十ヶ月目に滿足に子供を産むことが出來るのである、であるからさう云ふ場合に遭遇されたならば能く注意を與へて戴きたいと思ふ、で此流産と云ふ事に對しては之れで止めて置きまして、早産と云ふ事を少し申上げます。

此早產と云ふのは五ケ月以上九ケ月までの間を早產と言うて居る、其間に分娩が行はれる、其原因は何う云ふ事から起るかと云ふと先程申上げた黴毒性の爲に來る場合もあるが主として子宮內粘膜に異狀がある爲めに來る場合がある、所謂內膜炎と云ふやうなものがあると其爲に來るので、五ケ月位の間と云ふものは子宮內に胎兒が在つて其胎兒を保持して行くに粘膜の方にそれ程負擔が重くないけれども胎兒が追々大くなつて行くと粘膜の方にそれを維持して居る力と云ふものが餘程多量に必要になつて來るのであるそれが若しも粘膜に異常があると其場合に粘液が足りなくなつて遂に支へることが出來ずに早產を起す、是は恰度極く惡い土地に木を植ゑて置くと或る程度まではそれが育つて行くけれども、ずつと大くなると――根の生え方が惡いので忽ち倒れて仕舞ふと云ふ風に地盤の方が其木を支へるに足るだけの力が無いと云ふ場合矢張り其木が倒れると同じく早產をする場合も是が原因となるものであります、で此早產の原因としては先づそれが重もなる原因であつて分娩の場合には何う云ふ風に來るかと言ふと是は平產と左程變らないが辛うじて分娩を經過するものであります。

それから平產の場合に於ては已に皆さんも是まで度度の講演で御承知になつて居る事でありませうが分娩が始まると陣痛が起るさうして子宮が漸次開口して來る、是を開口期と言ひ次に胎兒が娩出する此の期を娩出期と言ひます、さうして其次に胎盤の出る期を後產期――斯う云ふ風に分つてあります。

此分娩期に當つて皆さんに御注意を致したいと云ふのは世間で難產であるとか或は安產であるとか云ふ事を皆言ふて居るが醫者の言ふ難產とか安產とか云ふのは普通の方の言ふのとは少しく趣が違ふ、普通の方になると云ふと分娩が早く極く輕く經過すればそれは安產であるとして居り又分娩時に非常に時間が掛ると是は非常な難產をしたと斯う言ふて居るけれども醫者の立場から言ふとそれとは少し違ふの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

である、分娩の場合に時間が長く懸ると云ふ事は誰も好まないことであるけれども時間が比較的長くつても其分娩からして起る種々の危險がある其危險が伴はないとか或は無かつたならばそれは我々醫者に取つては平産と言ふのでありますが、又何んなにお産が早くあつても其分娩の結果として母體或は胎兒に異常があつたならば又非常に危險な症狀が現はれて來る場合であつたならばそれを難產と言はなければならぬ、世間では初產の場合には非常に心配する所謂難產とも言つてある位であつて分娩の經過の時間が長いものであるからして非常に心配をされるのであるが二度目三度目になると分娩經過は非常に短かい、であるから極く平易であるので初回程に重きを置かないけれどもお醫者の方に取つて見るとさうでない、初回の分娩は成程時間も初の事であるからして要るかも知れないけれども、それに附隨した危險症狀と云ふものが比較的少いのである、で其危險症狀と云ふものは何う云ふ風なものであるかと云ふと是は餘程注意して聽いて戴きたい事であるが、分娩の際に生命を奪はれる、所謂生命を犧牲にして分娩をすると云ふ場合がある、それで此際には何う云ふ風な危險が伴ふかと云ふと出血と云ふ事が一番危險を催す原因の重なるものであります、其出血は何う云ふ時に起る出血が一番生命を奪はれるかと云ふと後產期所謂胎盤が娩出した所謂其後——分娩が終へて後に起る出血と云ふものが是が非常に生命に危險を及ぼすところの原因である、で初產の場合になると云ふと娩出の時間と云ふものが長く掛るけれども比較的年齡は若し元氣はあるしますからして出血の量が少くて濟むもので忽ち癒るものであるけれども二回三回と回數が重ると云ふと產婦其者の疲勞も重なり體は疲れると云ふ點もあるけれども產後の出血は二回三回と度を重ぬるだけ多くあるのであります、それだから出血に因つて亡くなるところの人は先づ大多數の人に度數の重つた人に多いので初產の人には比較的少いのである、それであるからお醫

者の方では生命を奪はれべき出血に對しては非常に重を置いて命令をして居るものであるからして初回期の分娩の時に時間の掛ると云ふ事に對しては然程重を置かないのでそれよりか寧ろ出血と云ふ事に就て重を置いてある。ところで此出血なるものが此妊婦には必ず來る彼の妊婦には必ず來ないと云ふてそれをちやんと確定すると云ふ譯には決して行かない、前の時の產には非常に樂に產れて出血もなかつたけれどもが二回目の時には分娩は容易かつたけれども後に出血が多くて其爲に非常に苦んだと云ふ者もあり又初回の時には非常に出血したけれども二回の時にはさうでなかつたと云ふやうな風に必ず初に來たからして後にも來ると云ふ風な場合にも行かないものであつて、此出血の危險症狀と云ふものが分娩時に於ては豫想することが出來ない、何時何う云ふ場合に出血をして來るか殆んどお醫者にも解らない、それであるからして此出血と云ふ事を防ぐと云ふ上に於ても其分娩に携はりて居れば其場合にそれを豫防することが出來るけれども其處に携はつて居ると云ふことがなかつたならば出血して始て騒ぐと云ふことになる、是はお醫者の方に取つては分娩を介助するに於て困難をする事柄であります、で分娩中に出血の起ると云ふ場合があつてもそれを防ぐさ云ふことをするにはお醫者が何うしても其場合に携はつて居ないと云ふと充分にそれを防ぐことが出來ない、それであるからして分娩の際には必ず出血をするものであると云ふ事に考を有つて、さうしてお醫者の介助を俟つて其豫防と云ふ事をしなければならぬと思ふ、で此出血の爲に生命を奪はれると云ふ事柄は世間に澤山あつて、此出血をすると云ふ場合は極く或る瞬間の場合に起るところのものであつて、前から其徵候が見え惡くいものである、それで出血した直ぐにお醫者を呼んでそれを介助しやう手當をしやう——お醫者を呼びに行き又お醫者の處に其事を告げると云ふ事でお醫者が其處へ行つてそれを手當をするにしても十分なり十五分なり或は二十

分なりの時間が要る、さうすると出血が十分なり二十分なり置いて非常に出血があつてお醫者が行つても間に合はないと云ふ場合がある、此間も或晩に夜遲く戶を叩く者があつたので出て見ると今御產が濟んで非常に出血して容體が惡るくて困るから來て吳ろと云ふことであるから今直に行つて上げると言ふた‖で產後の出血と云ふものは其危險症狀が非常に急劇の間に來るものである約二十分か三十分ばかり何う云ふ危險が來るかも知れぬから近所のお醫者にそれを賴んで應急の手當をして貰らうたら宜い後直ぐに行くと言ふたところが其內に又使が來て是非至急來て貰らひたいと云ふので何うも愚圖々々して居る譯に行かない寢衣の儘で出て行つて手當をしたと云ふ場合がある、がまあ宜い鹽梅に其患者は私が行つた爲に助かつたのである。

さう云ふ風に分娩の際に起る出血は非常な危險のものであるから是は先づ分娩に於ては一番危險を催す‖是が命を取るものであると云ふことを考へて其處置を取るやうになさらなければなるまいと思ふ。

それで此出血に對するところの豫防法として何う云ふ風な事をしたならば一番安全な方法であるかと言ふと普通の產婆の場合に分娩の場合が來れば大抵產婆一人で分娩をさせて仕舞ふ、ところで產婆の方の性質なり又其人の行方ではお醫者を迎へると云ふことに就ては非常に嫌らうと云ふやうな產婆がある、さうすると今出血すると云ふやうな場合にもお醫者を呼ぶと云ふやうなことがなくて經過する、さうする中に出血が甚くなつて危險症狀を起す、それで產婆のみを雇つて分娩すると云ふ場合產婆を選擇するに於ては難ケしい問題でありますけれども此產婆の良い產婆であるか惡るい產婆ではないかと云ふ事を見る一つの手段としては分娩中に危險症狀が起るか起らないかと云ふ事を輕く早く認めを付ける產婆が一番良い產婆であると云ふ事の標準で選んだならば宜い、さう云ふ產婆であるとお醫者を呼ぶにしても早く產婆に解るから大變都合が好いがそれが解らぬ產

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婆であると時期を遅らして來ると云ふやうな風であるから成丈危險症狀を充分に豫知することが出來るやうな産婆を選ぶと云ふ斯う云ふ方針で充分に知識經驗の有る者を頼んでさうして出來得る限りお醫者も危險症狀が來ると云ふ豫想の注意が出來得る限り醫者に懸けて斯う云ふ事にしたら宜からうと云ふ風にしてさうして先づ分娩と云ふ事に滿足と云ふことの出來るやうにするやうにしなければならぬ、分娩が終へて子宮が元の狀態に復舊する期間を産褥期と言ふのであつて、此産褥期と云ふものは何う云ふ風な症狀を呈するか又何う云ふ風ふ手當をしたら宜いものであるかと云ふと此期間は非常に大切な期間であつて恰度之れを植物に譬喩て見ると初に種子を蒔いて、それが自然發育して花が咲いて實を結んで今度刈收れられて其後の畑を又耕換へると云ふ時代である、で此畑を耕換へて其土地に新らしく次に植付けると云ふ時の準備をする時節であるからして此期間に行方が惡るかつたならば後に於て前のやうな種子を蒔いても生えることが出來ないし又實を結ぶと云ふことも出來ない、で此期間には特別な注意をしなければならぬ、で世間で往々初に一人子供を産んでそれから後もう一人も無くて困まると云ふ人がある、でそれは分娩前に産褥期の經過と云ふものゝ症狀が良くないと起る現象である、それであるから二度目でも三度目でも産褥の時には充分に注意しなければならぬもので特に子宮が復舊して行くと云ふ上に於ても何にしろ妊娠十ヶ月間の長い間居た處の子宮内の胎兒が急に出て小さくなるのであるから何れにでも位置形狀と云ふものが變化し易いもので左へ曲ることもあり右に曲ることもあり後に覆へることもあり前に曲るもとあつて何んなにでも變化を呈するものである、でさう云ふ風に自由に子宮の位置形狀が變るものであるから分娩後に起る子宮後屈などに就ては總て此産褥期の注意が足らなかつた爲に起る現象であります、それで此期を圓滿に通過すると云ふには何うしたら宜からうかと云ふと、分娩が

終はると總ての分娩に對するところの處置が畢はつたならば充分に精神を鎭めて睡眠を取るやうにしなければならぬ、是は妊娠十ケ月の間子宮内に血液が充血して居つたのが急に三時間か五時間の間に娩出して仕舞つて特に血液の調節力と云ふものが變つて來る、であるから此場合に充分に精神を鎭めてさうして睡眠を充分に取ると云ふことに努めて其血行が元に復して行くと云ふやうにしなければならぬ、それから此臥るには何う云ふ風な臥方をしたら一番宜いのであるかと言ふに是は皆日本の習慣として坐產＝＝坐はつてお產をする其儘產褥に就いて居る、それは產まれる時分に後ろに小さい枕を二十一位拵へて斯う云ふ風に頭の處で寄懸つてそれを一日々々一つ宛去つて二十一日目に去つて仕舞うと云ふ風にして居つたのであるけれども今日はさう云ふ風ふ事は出來得るものでない、それなら何うしたら宜いかと云ふと仰向けに臥ると云ふ事が一番必要であるでそれは子宮が骨盤の中腹に位置を取つて居るからして其位置で漸々と小さくなつて行くのであるから若しも左に臥たり右に臥たりすると其傾いた儘で小さくなつて來る、だから何うしても平行な位置で仰臥すると云ふ必要があるのであります、併し其仰臥と云ふものを一週間も二週間も續けて居るが宜いか何うかと云ふ事＝＝それは又さう云ふ譯には行かない子宮の收縮の度合に因つてそれを注意を與へるので、子宮の收縮が非常に良くつて骨盤内に子宮底が現はれて來るやうな場合になつても依然として仰臥を取つて居ると云ふと子宮底の重みで後ろに背繰り返る、さうすると所謂子宮後屈と云ふものを起す、仰臥が宜いからと言つて何時までも仰臥で居ると云ふ事は宜くない、で其仕方等に就ては產婆なり又醫者なりの指揮を受けてせねければならぬ、で若しも三日なり四日なりの後起直つて見ると子宮の位置に就ては異狀は來ないとしても今度子宮の粘膜が復舊作用が充分に癒り悪くつて又一種の病氣を起す事がある、又餘り早くから起きると云ふと子宮が今度後ろ

に寄らない代りに前の方に出る、所謂子宮前屈と云ふやうな事を起すのである、それで此早く起るとか長く臥て居るとか云ふ事は是は醫者なり産婆なりの指揮に從つて適當の處置を取らなければならぬ。

それから食物の關係――是は何う云ふ風な物を食べたら一番良いかと言ふに産褥に在ると云ふと十ケ月間子宮が腹腔の中に大きくなつて居たのが急に小さくなるのであるから腹腔の胃なり腸なりの位置が變つて居るので若しも其場合にいろ〳〵矢鱈な物を食べると機能が壓迫されて居つたのであるから機能が鈍くなつて居るところに以つて行つて食物の取り樣が惡いと腸を破はすのである、それであるから必ず産褥の中には一週間の間と云ふものは充分な用意をしなければならぬ、で其場合に何う云ふ風ふ物を食べて居つたらば宜いかと云ふと先づお粥を食べるとか云ふやうにして、一番消化の良い物を用ひなければならぬ、其他鷄卵を食べるとか或はお味噌汁を吸ふとか牛乳を飲むとか總て消化の良い物を選んで食べる、さうすると一週間も經ると子宮も收縮するし又腸胃の位置と云ふものが漸々元に戻つてさうして元氣も幾分か恢復されるやうなものであるから一週間までの間は用心をしてそれから漸々普通の食に戻すやうな方針を取つて行かぬければならぬのであつて此期に一度腸を損はすと云ふと却々腸の疾患は癒り惡くいもので特に下痢などを始めると殆んど三週間も下痢をして居ると云ふやうになつて後に藥を與へても止るべき筈のものも却々止まらぬと云ふやうな頑固なものであるから必ず此期間の下痢と云ふことを避けなければならぬ、其爲に特に用意をすると云ふ事を心懸けねばならぬ、それから又便所に行く時用便に行くと云ふ事は是が産褥に在ると云ふと大問題になるで是は餘程注意をしなければならぬ事で一週間の間と云ふものは前の通り仰臥になつてから總て兩便共に便器で取る、それから後は何うしたら宜いかと云ふと一週間でも起きて用便をして宜いかと云ふ事は醫者の許可を得てした方が宜い、面倒だ

なぞと言つて許がないに若しも便所に行つて大小便をすると云ふと大變な事になる事がある、であるから先づ起きて大小便をすると云ふ事は許されても大事を取つた方が宜い、それで用便を便所に行つて爲ると云ふ事は何ふ云ふ風の考を持つて居つたら宜いかと言うに先づ子宮の惡露下り物が全く止まつたと云ふ時を機會として便所に行くと云ふ方針を取るやうにして或は十日目に便所に行つても宜いし二週間經つたら便所に行つても惡露の排泄が無くなるか或は殆んど無くなつたと云ふやうな時期を機會として便所に行くと云ふ斯う云ふ事にしたら宜からうと思ふ、でそれは何う云ふ譯であるかと云ふと便所の中に惡るい空氣が在ると云ふのと又子宮の產道の瘡面が充分に癒へないのでそれからして種々の黴菌が入るから之を防ぐ爲に成丈便所に行かないやうにするのである。

それから沐浴は何うしたら宜いかと云ふと沐浴も矢張り便所に行くことの出來るやうになつてさうして體の工合が普通になつて步行をしてそれ程苦痛も無い眩暈もしない、頭痛もしないと云ふ其時に恢復の有樣を圖りて二十一日に入らなければならぬと云ふことでなく餘り或時期を限らないで體の工合からしてちやんと看て懸るのである、で便所に行つて見てさう體に異狀が無かつたならば宜いが是等も望むらくはお醫者の意見を聞いて行つて貰らうと云ふ風にしたいのである。

それから哺乳と云ふ事は此產褥期に最も必要な事であるから今の學說では先づ牛乳を用ひないと云ふ事で、是は皇室の方々でも此頃は御乳母をお選びになると云ふやうな有樣であるから大に此母乳が必要であつて自分の乳で子供を育てると云ふ事、是は何うしたら宜いか又何うしたらお乳が出るかと云ふに、自分の經驗に據ると斯う云ふ風に行つたら宜いかと思ふ、先づ子供が生れたならば產後二十四時間と云ふものは哺乳は行らないとして置いてさうして子供の方には充分に腹を空にして置く、尤も其間に子供

の方で食慾が來て食べたくなると云ふやうな傾向があつたならば極く薄い砂糖に味が付くか付かぬ位薄い水と同じやうの物を與へる、で子供が泣くのは大便が出たとか或は眠むいとか云ふ事を知らせる爲の要求に泣くのであるから泣いたとても怖れることはないから二十四時間内は可成腹を減らして置く方が宜いのである、それで此砂糖を薄めた水を與へるのも唯腹を滿足させると云ふ意味でなく唯食慾を補つて行くと云ふ斯う云ふ風な事にして置いてさうして二十四時間經つたならば直ぐに母乳を吞ませる＝＝乳を付けて仕舞ふ、でそれは乳が出たから付けると云ふ譯でなく出ないでも構はず乳を付けて仕舞ふと云ふので、是は子供が吸ふと云ふ事に就て大變必要であつて是が爲に分泌を進めるので、斯う云ふ風に出ない乳でも吸はせると云ふ事は乳の出るのを進める方針であるであるから二十四時間經つたら乳の出る出ないに拘はらず子供に乳を付けて仕舞ふ、さうして其乳を付けるには付けて見ても却々出ない、出ないけれどもが子供の方にも飮む量と云ふものは非常に少ないものであるから、それで一時は滿足するけれども次の時間までが二時間か三時間しか持たない、それであるから一時間でも構はないから子供が要求したらば又飮まして仕舞ふ、さうして度を重ねて飮ます中に一方の乳と云ふものが張つて來る、すると一方の方を飮ませると云ふ風にするのである、で母乳を與へる上に於て時間は何うかと言うと是はいろ／＼行つて居る人がありますけれどもが自分の考では何分間飮ませてさうして、何分間間を置いて飮ませるか。或は五分間經過して與へるとか云ふやうな事も行つて居るのであるが。併し是は自分の考としては宜くないと思ふ、それよりか子供の飮量と云ふものが各自分らないから、初に先づ乳を遣つて見ると或時間持つ、さうして二時間持つと云ふのであつたら食慾が出て來て其時に遣る、で若しも二時間平均とか三時間平均とかあつたならそれに應じて前の日の經驗から翌日は時間を定めて行くこと

が出來るとか云ふ風に大抵見當が付くからそれで以つて行つて行く、さうして一週間か二週間も續けて行つたなら一時間も二時間も違ふと云ふ事はない、で昔から此子供には二時間位持つだけの能力があると言つて居りますが斯う云ふ風に子供に當つて定めるので、又哺乳の時間に就ては五分とか三分とか言うけれどもそれが乳が充分に出る時でも出ない時でもさう云ふ風にするのである。吾々でも御飯を早く食べる場合もあり遲く食べる場合もある、それを何分間に是非食はなくちや行かないと云ふ風に、矢張り其子供が滿足するだけの時間だけは飲ます、さうして其間の時間と云ふものは前の日に二時間であつたから後の日は斯うと平均の時間を取つてそれで行つて行く、それで子供が——日本の習慣とすると乳を行る時間の規定時間を定めて置いても子供が夜中に泣くと直ぐに與へる、で子供の泣くのは乳を求めるか或は睡眠不足か或は大小便の出た事に就ての要求と此三つより外はない、子供には痛いとか痒いとか又お尻の氣持が惡いとか此三つで泣くのであるから先づそれ等の事柄を驗して見て尚泣くやうであつたら乳を飲ませる、で其乳を飲ませる時間も二時間位經つて居つたら乳が欲しいのであるから遣つても差支へない、だから子供が泣いたと云ふて時間を限らず乳を行ると云ふ事に就いて注意をして前の三つの事を判斷してさうして時間の點も考へて行つたなら一番安心であるそれで乳も濃くなると子供の方でも長く持つ、二時間も三時間も何うかすると四時間も持つことがある、それは飲量が多くなつて乳が濃くなつて來るから其爲にさう云ふ風になる、で先づさう云ふ風に進んで行つたならば乳を付ける事母乳で育つと云ふ事は然程困難でもなからうと思ふ先づ斯う云ふ風に產褥に就ても注意したならば左程間違が無くつて濟む。

で總て妊娠から產褥と云ふ間にいろ〳〵の事の注意がありますけれどもが要するに此分娩期の復舊する產褥の間と云ふものは是は非常に健康に出來て居つ

てさうして比較的危險無く經過すべきものになつて居るのであつて是は決して不思議のない生理的のものであるから危險を有つか否かと云ふ事も今日では諸大家もあり非常に學術の上からも進んで居るから安全に出來るものであるからして其安全の出來るものではあるが、それが又危險を起易い類のものであるからして成だけ其危險を起さぬやうに豫防して行くと云ふのが是が必要であると思ふ、で此豫防すると云ふ事に就ては矢張りそれだけが土臺になつて居ると云ふ事を自分で知つて居ると其豫防が出來ますから其豫防に就いて其時の注意をざつと申上げたのであります。

叢談

猩紅熱の話

醫學士　篠原昌治

猩紅熱は全世界到る處にある病氣でありまして、一般に秋季に多く發するものでありますけれど、大なる都會に於きましては、四季何れの時でも絶ゆることはありません。これは極めて傳染し易い病氣でありまして、且吾邦に於きましては、近來少しづゝ其數が增加しゆく樣に思はれますから、爰に其大體に就いて申上げやうと思ひます。

猩紅熱は、急性傳染病の一種でありまして、痲疹、風疹、痘瘡及び水痘と共に急性發疹性疾患と唱へられて居ります、此等の病氣は、皮膚に固有の發疹を

生ずることを特徴として居りまして、多くは小兒に來るものであります、其發疹は各病症によつて特有の外觀を有するものでありまして、それが其病氣の診斷上の補助ともなるものでありますけれど、其は餘り話が專門的になりますから爰では申し上げぬこと丶致します。

猩紅熱は、急性傳染病でありますけれど、其病毒が如何なるものであるかと云ふことはよく分つて居りません。是迄猩紅熱の病原菌と云ふものが屢〻發見せられましたけれど、未だ充分信用することの出來る程のものはありません。然し猩紅熱の病毒が、患者の血液や小水疱の內容中にあると云ふことは、此等のものを移植することによつて健康人に此病氣を起すことが出來ると云ふことによつて明らかであります、猩紅熱は其病毒が不明なるが如く、又如何にして傳染するかと云ふこともよく解つて居りません。然し此病氣は、高度の接觸性傳染病でありまして、唯患者の傍に暫らく居つたゞけでも傳染することがありますし、又患者の用ゐた器具類卽ち寢具、衣服、什器、玩具等よりも傳染するものであります。又此病人と交通する人は、自分自身には病氣に罹らないでも、病毒を他に傳搬することがあります。英國では牛乳によつて病毒を運搬することがあとるさへ云はれて居ります、元來猩紅熱の病毒は、極めて頑固なものでありまして、其傳染力は數ヶ月間も持續するものと云はれて居りますけれど、其は確實に證明せられたことではありません。然し猩紅熱患者の傳染力は確に皮膚の落屑が終るまでか又は其れよりも長く持續するものであります。

此病氣は、二歲以上十歲以下の小兒に多く來るものでありまして、初生兒には極めて稀であります、年齡の長ずるに從ひ、此病氣にかゝることは段々少くなりますけれど、大人でも屢〻此病氣に犯さるゝことがあります、殊に一家の中に於て、小兒が一人此病氣に罹りますと漸次他の小兒に傳染し、遂には大人迄も悉く此病氣に罹つて一家擧つて病牀に呻

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

吟せねばならぬと云ふ樣なことは屢々實驗することでありまして、其點に於て猩紅熱は他の傳染病よりも却而悲慘なことがありますから大に注意せねばなりません、而して多くの小兒のある家庭では悉くの小兒が一時に此病氣に罹ることもありますけれど、又全く同じ事情の下に於きまして他の小兒はみな此病氣に罹りましても唯其内一二のものだけが罹らぬと云ふ樣なこともあります。

新らしき創傷に罹れるもの、手術後のもの、及び產褥にあるものは比較的此病氣に罹り易いものであります。而して一旦猩紅熱に罹りますれば、多くは免疫性となりまして、再感することは極めて稀でありますけれど、時としては除外例として再度感染することがないとも限りません。

傳染病には凡て潛伏期と申しまして、其病氣に感染してより發病するまでに一定の時日があるものでありますが、猩紅熱では其潛伏期は一定して居りませんけれど、普通二日乃至四日間であります、然し時としては其よりも長く七日以上のこともあります、此間は殆んど何等の症狀もないものであります。

此病氣に罹りますれば、それ迄全く健康であつたものが何となく不活潑となり、食慾減少し睡眠多く頭痛、嘔吐、咽頭痛、及び輕度の發熱と云ふ樣な前驅症がありまして、其後急に高度の發熱を來すこともありますし、又何等の前徴もなく突如として急に惡寒、又時としては戰慄を伴ふ高熱を發し、同時に咽頭部の疼痛を來すこともあります、これは多くは後に來るべき猩紅熱性扁桃腺炎の爲であります、其と殆んど同時に皮膚に鮮紅色の發疹を生ずるものであります、それは先づ頸部、胸部、背部より全身の皮膚に擴がるものでありまして、初めは無數の密生せる小なる紅色點より成立つて居りますけれどそれが程なく相湊合して一種特有の紅色を有する猩紅熱紅疹となるものであります、然し顏面に於きましては額、殊に口脣、頸部等は蒼白色となつてそれが非常に紅くなつた頰部と著しき對照を呈することが

あります。此紅疹は日光で見るよりも却而燈光で見る方がよく解ることがあります、此と同時に烈しき咽頭加答兒を生ずるものであります、此發疹がある間は他の重篤なる症狀も持續するものでありますけれど、普通四日乃至六日を經過しますれば發疹が漸次消散しはじめまして其と同時に熱も下降し咽頭の痛みも衰へまして、第一週の終りか又は第二週の初めには諸症輕快して全く平常の樣になり是より落屑期と申しまして身體の表皮が剝落する樣になるものであります。此時期には猩紅熱に於きましては、麻疹と異なり粉糠の樣な小さきものでなく表皮層の大片が剝落するものであります、それは殊に手足に於て著しく小兒は每日仕事の樣に大小の表皮を剝して居るものであります。

猩紅熱の時の體溫は四十度乃至四十度五分、時としては四十一度と云ふ樣な高度に達することがありまして、脈搏も之に伴ふて頻數となり百四十乃至百六十となることがあります、此發熱は皮膚の紅疹が消褪し他の症狀がなくなると共に下降するものでありまして、時としては急に平溫となることもありますけれど普通は徐々に下降するものであります、發病後二週間にもなつて尙體溫の下降せぬのは多くは重症扁桃腺炎又は頸部の淋巴腺炎等の合併症の爲でありますから注意せねばなりません、然し時としては初めから熱が全くないか又は極めて輕度のこともあります、殊に吾邦の猩紅熱は輕症で發熱も極めて輕微なものが多くあります。

咽頭加答兒は此病氣の際常に來るものでありますけれど、唯時として全くないこともあります、而して其程度も大に異なつて居りまして咽頭部が赤くなつて少しの疼痛がある位のこともありますし、又扁桃腺面、口蓋弓及懸壅垂等に汚穢白色の苔を生じそれが漸々蔓延し遂に其部分が剝脫しまして、組織の缺損を生じ其爲にひどく出血する樣なこともあります、これは普通發病後三日乃至五日頃に來るものでありまして、壞疽性咽頭炎、又は猩紅熱性實扶垤里

と唱へられて居ります、此際頸部の淋巴腺及其周圍の部分が腫れて爲に危險な症狀を來すこともあります。

舌は初め舌苔がつきますけれど、それが剝落して舌面は鮮紅色を呈し小さい粒々が出來て、恰も「いちご」の實の樣な外觀を呈すものでありましてこれは猩紅熱に特有のものとして知られて居ります。

皮膚には前申上げました通りの紅疹を生ずるものでありますがそれが時として極めて輕微で殆んど解り兼ぬる程のこともあります、此發疹は顔面軀幹四肢何處にも生ずるものでありますそれが時としては少き結節狀となり、或は水疱となり又は出血性となることがあります、此出血性のものは身體の他の部分の出血を伴ひまして爲に危險狀態を來すことがあります、而して此紅疹が褪色せる後に落屑期となりまして表皮が剝落する樣になります、それは一二日の後に來ることもありますし又一二週間の後になつて始まることもあります此落屑の程度は普通は紅疹の強弱に併行するものでありますけれど、時としては紅疹は極めて輕微でありまして、落屑だけは頗る著明のこともあります、此落屑は表皮の大きな塊りが取れるものであると云ふことは既に申上げました通りであります。

猩紅熱の時には屢〻來るものは、腎臟炎でありましてこれは極めて大切なものであります。猩紅熱の高潮時に尿量が減少して、蛋白質を排出することがありますけれどこれは左程心配すべきものではありません、此腎臟炎は多くは發病後二週間の終りか又は三週間の初め頃に起るものであります、夫故猩紅熱に罹つた患者があれば常に尿の檢査を怠つてはなりません、これは普通二週間乃至四週間にして治癒するものでありますけれど時としては慢性の腎臟炎となることもあります。

其他猩紅熱の際には、中耳炎、關節炎、肺炎等が來ることもあります。

猩紅熱は一般に前申上げました樣なものであります

けれど、時としては極めて輕症でありまして扁桃腺炎があつて殆んど發疹を見ることが出來ず、其際輕度の發熱と全身症狀が之に伴ふことがあります、斯る場合にはそれが猩紅熱であるか否かと云ふ診斷をつけることは極めて困難でありまして、多くは後になつて落屑が來るとか又は腎臓炎を發するとか云ふことによつて診斷を確定することが出來るものであります。然したとへ發疹がなくとも惡性のものもありまして、其際は、高熱を發し、脈搏が多くなり、昏睡狀態に陷る等の全身症狀が強く、遂に不幸の轉歸をとることもあります、其他別に合併症としてもなく唯初めより重症のものもあります。

猩紅熱は初期には解り兼ぬる病氣でありますから、急に咽頭が痛むとか又は皮膚が赤くなつて熱があるとか云ふ樣な場合には、可成速に醫師の診察を受けて充分なる手當をすることが大切であります。

吾邦の猩紅熱は一般に輕症のものが多くありまして、これが爲に死亡するものは餘り多數ではありません、然し初め輕症と思ふたものが案外に重症であつたり、又は腎臓炎を起して其爲に貴重の生命を失ふ樣なこともありますから決して安心することは出來ません。

家族の一人が此病氣にかゝつた時には速に之を隔離し、器具飲食物等を全く別にすることが最も緊要であります、此病氣の傳染力は他の傳染病よりも強く、老幼の差別なく之を犯して一家擧つて此病にかかると云ふことは決して珍らしくはありません、夫故出來るだけ早く病人を隔離し、他に傳染せぬ樣にすることが大切であります、而して此病人は恢復期となりましても三四週間は病牀に置く必要がありまして、全身皮膚の剝落が全く終りました後に入浴せしめ初めて健康體に復したことになります、此病人の治療法としては攝生を重んじ食事に注意し、皮膚を清潔にすることが大切であります、其他の治療法は種々ありますけれど凡て醫師の手にて行はるべきものでありますから茲では申上げぬことゝ致しま

す、然し猶も注意すべきことは、此病人は咽頭の疼痛が去り皮膚の發疹も消散し、體温が平常に復しますれば病人には何等の苦痛もなく、又家族の人も病氣は殆んど治癒したものと考へて醫師の監督を離るゝことが往々にしてありますけれど、此病氣は斯る時期に腎臟炎を發し、夫れを知らないで居て知らず識らずの間に重症に陷らしむることが屢々ありますから、たとへ患者自身何等の苦痛もない樣になりましても、病氣が全く恢復してもう大丈夫と云ふ樣になるまでは常に醫師の監督を受けて居ることが大切であります。

菖蒲に就て

莊司秋次郎

萬代にかはらぬ物はさみたれの
しつくにかほるあやめなりけり
（大納言經信）

菖蒲、卽ち「アヤメグサ」といふのが古名で、歌などには皆あやめ、或はあやめぐさと詠れて居る。漢名には昌陽、水劍草など稱し、西洋では「アコルス」と云ふ種類のもので、植物學上では天南星科に屬して居る。菖蒲といふのは總名で、その中には石菖蒲、白菖等がある。石菖は錢蒲「カウライセキシヤウ」といふて彼の盆栽にされる、葉の長さが一寸位で、よく石に根のつく可愛らしい草であるが、五月の節句に軒端に挿す菖蒲はこの石菖の大きなやうなもので長さが二三尺もある。

今玆に端午の節句に方つて多少衞生上の見地から概の菖蒲を觀察して見たいと思ふ。一體この端午の節句、卽ち菖蒲の節句は平安朝時代から上下を通じて行はれて來た所の五節句の一つであつて、三月三日の桃の節句は雛祭りで女子の祝日たるに對して、この端午の節句、卽ち菖蒲の節句は男子の幸福出世を壽ぎ武家式日中でも、最も盛なるものであつたが、明治維新の後は曆日の改正その他百般の變革と共に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

此等の儀式も廢つて仕舞つて、僅かに堅い地方に殘つてゐる位の儀式となつた、然し近年また雛祭は幾分か復興の氣味であるが、端午は東京あたりでは紙や布製の鯉の吹流しを立て、稀に軒に菖蒲を插す家もあり、錢湯屋で菖蒲湯をする位のものに過ぎない。此等節句の儀式を觀察すると、如何にも氣の利いた趣味の深い風俗である、私は是非此等の儀式を保存し復興し、朝鮮、臺灣は勿論、西洋の方にも大に流行らかしてやり度いと思ふ。依て少しく昔の端午の節句に就て批評を試みる。

端午の節句には先づ第一に軒端に一二尺づゝ隔てゝ菖蒲と蓬とを二三本づゝ插したものである。それから矢張菖蒲と蓬とを束ねて風呂に入れ所謂菖蒲湯を立てゝ浴した。或は又菖蒲酒を飲み、女子は菖蒲を插頭にもした。但し軒に插し又は菖蒲湯に入れるのは泥菖といふて二三尺にもなる大きな菖蒲であるが、菖蒲酒などに用ゆるのは彼の小さな石菖根を用ゆるのである。此の如く菖蒲を用ゐたのはそも〳〵如何なる理由によるかと云へば、恐らく邪氣を拂ふと云ふ考に出たものと思はれる。菖蒲の根には一種の香氣があつて如何にも邪氣が避けそうである。又その葉の中心には脊が通つてゐて恰も劍の如く、尙ほ根の淡紅色と葉の鮮緑色とは如何にも配合が好く、五月雨の軒端には活々した色を保つてゐる。藥物としてはこの根を用ゆるので、一寸九節のものが良いと云ふて居る、而してその效能は「五藏を通じ、耳目を明かにし、音聲を出し、心智を益し年を延ぶ。心氣不足の者にこれを用ゆ。虚するときは則その母を補ふ。肝は急を苦しむ、辛を以て之を補ふとは是なり。以て神仙の靈藥となす」と云ふ。實際はどうか分からぬが、兎に角斯樣な靈藥と考へられたのであるから、これを酒に漬して飲み或は湯に入れて浴すれば勿論效があり、軒端に插しても邪氣をよけると信ぜられたのであらうと思ふ。今日とても藥物として菖蒲根又は菖蒲丁幾などゝ云ふものが用ゐられる。即ち菖蒲根の中には揮發油の他に芳香苦

味の「アコリン」と云ふ樹脂様の配糖質を含むで居るので、これを胃病の藥として用ゐる、卽ち健胃劑として消化不良の時に一日數回〇・二乃至〇・五位を散藥又は浸劑として與へる。又味や香の惡い藥に矯臭劑として混ぜられる。菖蒲丁幾も一回十五滴位づゝ健胃劑として用ゐられる。此他菖蒲根の主成分たる「アコリン」及びその內に含まれて居る揮發油には刺戟性があるのでこれから製した菖蒲油は「アルコール」に混ぜて僂痲質斯のときに疼痛のある處に塗る。これを又浴湯に加へて溫浴せしめる、これは僂痲質斯ばかりでなく、所謂藥湯として腺病性の小兒などに應用して效がある。

今日に於ても右の如き效用を認められて居るのであるから、健康な人でも一年に一度菖蒲湯に這入ることは如何にも邪氣を掃ふやうな氣分がする。弱い小兒などは五月五日のみに限らず五月中每日菖蒲湯に入れたらば宜しからうと思ふ。

それから書物などには餘り書かれてゐないやうであるが、簷に插した菖蒲——必しも簷に插したのとは限らぬ——を陰干にして、その根本の赤い部分を二三寸切取つて箪笥の隅に入れて置けば蟲除として頗る效能のあるものである。「ナフタリン」は第一に臭氣が下等なばかりでなく、暫くすれば無效になる。樟腦は臭は惡くもないが、金屬などの銹る恐がある。然るに菖蒲の根は餘り匂はない、卽ち著物や何かに移香がしない、よし匂がしてもそれは上品な香氣である、而かも何時までも效能がある、何時までもと云ふて、少なくとも來年の五月までは效能がある。私は實際これを試みて、最も適當な最良の蟲除と信じて居る。

昔は女の子供などが、五月節句にこの菖蒲を頭に插したと云ふことであるが、邪氣を掃ふとまでは行かなくとも少くとも虱などは逃げて行くであらうと思ふ。

尙ほ簷の周圍に菖蒲と蓬を插したのは火災を除く意味もあつたのであると云ふ說があるが、これ亦さも

あるべき理である。

菖蒲の效能は略ゝこの位にして、更に五月節句の儀式に就て觀察して見ると、先づ幟を立てる、これは武家に於て出陣の時の有様に擬したもので、門前の外幟には神功皇后三韓征伐の英姿、八幡太郎義家の具足姿。又は鍾馗の繪などを畫いた勇ましいものを立て、それに槍、馬印などを添え、內幟にもその家家の定紋を打つたものを立て、鎧兜を飾り、武者人形を並べる。三月節句は雛祭の節句、桃の節句で女子の祝日たるに對し、端午の節句は菖蒲(勝負)の節句で飽くまで男子の祝日である。若し雛祭が再興されて來たとすれば、これに對して是非菖蒲の節句を復興しなければならぬ。少年男子の尚武心を興起せしむるに少なからぬ效果あることゝ信ぜられる。端午の節句の精神は健康、武勇と云ふ事であるに相違ない。これは今日我國の少年子弟に對して最も希望せらるゝ二つの要件である。然れば東京邊で今日は五月には鯉の吹流のみを立てるが、鯉はなるほど出世魚として元氣の良い魚ではあるけれども、矢張昔風の武者繪の旗幟も建てたいものである。それから子供の遊戲に用ゐる菖蒲刀と云ふものがあるが、これは色紙或は布で木刀を卷いたものである。又菖蒲叩と稱して、菖蒲の葉で繩を綯て地を叩いて遊んだものである。此の如き遊戲もこの節句と共に保存し或は改良して兒童の體育に資し度いものである。

尚ほ端午には粽といふものを作る、卽ち普通は糯米を水に浸したものを揑ねて細長く丸めて菰又は笹に卷きて蒸したものである。この製法は時代により地方に依て種々あるやうである、又その由來に就ても支那の或地方の習俗から來たとも云ひ、色々の說があるらしいが、我國では極昔はいざ知らず、中古時代に於ては矢張戰爭の時の携帶口糧にしたものであるまいかと想像する、兎に角面白い物である。今日では主として柏餅だけが流行して居るが、これも私は鯉の吹流しよりも旗幟を希望すると同樣の理由で柏餅よりも粽を作つて兒童等にまう少し野臭と古武

士の氣風とを味はゝせ度いものである。

醫者と患者

醫學士　S、S、生

世の中の事は凡て相互に信頼すると云ふことは最も大切な事柄でありまして、一家の人々が互に相信じて居りますれば其家庭に風波の起る樣なことはなく、又一國に於きましても上下相信ずればこそ常に天下泰平で、富國强兵は期せずして自ら來るものである樣に、醫者と患者との間に於きましても此相互に信頼すると云ふことは最も大切なることゝ存じます。元來患者は何よりも大切なる生命を醫者に托するものでありますし、又醫者は患者より此貴重なる生命を托せらるゝものでありますから、此兩者は互に相信じ、其間に他では決して見ることの出來ぬ一種の溫情を生ずべきものではないでしようか。斯くしてこそ醫者は其是と信ずるところを躊躇することなく遂行する事が出來ますし、又患者は醫者の命ずる處に從て專心療養に從事しまして、是に由て患者の苦痛を和げ、よく九死の間に一生を得るてふ幸福を齎す事が出來るものかと考へます。然るに此兩者の關係が斯く圓滿でなく、醫者は患者の意を圖つて言ふ處を左右し、又患者に於ては猜疑の眼を以て醫者の行動を看る樣でありましたならば、到底完全なる治療を行ふことが出來るものでなく、爲に病勢衰へずして長く患者に苦痛を與ふるのみならず、周到なる注意によつて治癒し得べき病勢すらも遂に不幸の轉歸を取る樣な場合に立ち至ることがないとも申されません。此等の事柄に就ては申上べきことが澤山にありますけれど、之を總括的に申述べますよりも一々實例に就て申上げた方が便利かと考へますから、吾人が日常屢々見聞する樣な場合に就て順次申述べたいと思ひます。

今爰に一人の肺病患者があつたと致しまして、それが發病以來多くの醫師の診察を受けたけれど、何

處でも氣管がわるいとか、又は單に呼吸機が弱いとか云ふ診斷であつて、肺がわるいと云ふ人はなかつた。然るに病勢は少しも輕快しないばかりでなく漸次重くなる樣であるから、遂に何某醫師の診察を受けた。其醫師はこれは肺病で而かも病勢がひどく進んで居るから、もう恢復の見込はないと云はれ、其後間もなく患者は遂に死亡した。例へ肺病であつても、最初の醫師が速に其事實を知らして吳れられて、其際充分なる治療をしたならば、斯く迄速に死亡する樣なこともなかつたであろうがと思ふ。けれど肺病と云ふ事を知らなかつたばかりに手遲れとなつて、實に殘念なことをしましたと云ふ樣なことは時々耳にすることであります。

私は斯る場合に於て病名を告げなかつた醫師並に病の眞相を覩知することを得なかつた患者及び其家族に就てこの是非を論ずる考へではありません。唯斯る事實があるとしますれば、患者の家族は例へ醫師を怨むと云ふ程の事はなくとも、醫師に對して餘り好感情を持たぬ樣になり、從て醫師を信賴する程度が薄くなる樣に思はれまして、實に不祥なる出來事かと考へます。夫故私は如何なる事情の下に斯る事が生ずるか、又如何にすれば斯る不祥なことが起らぬ樣にすることが出來るかと云ふことに就て私の考へを申上げてみたいと思ひます。

爰に一人の患者があつて、それが醫師の診察を受けに參りましたと致します。其時醫師は明かに其患者が輕度の肺結核に罹つて居ると云ふことを發見しました際には、直に之を患者に告知する方がよいか、又は直接患者には知らさない方がよいかと云ふことは頗る重要な問題かと存じます。何となれば凡ての病氣に對して精神作用は極めて重大なる關係を有するものであります。元來病氣は單に藥物のみによつて治療せらるゝものではなく、其他の種々なる條件が治病の上に有力なる作用をなすものでありまして、就中精神の慰安と云ふことは極はめて大切なものであると云ふ事は今更申上げる迄もないことであ

ります。然るに吾邦では肺病は極めて治癒し難いもので、殆んど不治に近い病氣であると云ふ樣に考へて居らるゝ人も少くありません。夫故若しも其人が肺結核に罹つて居ると云ふことを直接患者に知らせました場合に、其患者が幸によく解つた人であつて、自分は肺病に罹つたのであるから、此際速に出來るだけの養生をして病勢の進行せぬ内に一日も早く治癒する樣にせねばならぬと云ふて、一生懸命に治療に從事せらるゝならば非常の好結果を來すことが出來ますけれど、之と反對に其患者が非常に神經質の人でありますと、肺病に罹つたと云ふ事を聞きました際に、如何にして之を治療しようかと云ふことよりも、先づ自分は殆んど不治に近い病氣にかゝつたと云ふ悲觀的觀念が其心を占領して、此際最も大切なる凡ての養生をも放擲して、徒に苦悶に苦悶を重ねることがあります。斯る場合には患者に肺結核であると云ふことを知らせた爲に甚しく病勢を增惡せしめ、遂に救ふべからざる窮境に陷ると云ふ樣な結果を持ち來すことになります。元來醫師は病氣を治療すと云ふことが大目的であります。夫故斯る場合に於きまして、患者に事實を告げて其爲に病氣をわるくする樣なことがあつては其本旨に反くことになりますから、自然病名の告知を躊躇する次第であります。而して例へ醫師でありましても、一見して此人には事實を告げた方がよいか、又は告げぬ方がよいかと云ふ事まで解るものではありませんから、醫師は寧ろ萬全を計つて肺結核の初期と診斷しながら、之を直接患者に知らせぬ場合もありますけれど、是を以て其醫師が不信であると云ふ譯のものでもありますまいと存じます。

それでは患者自身には之を知らせないでも、患者の家族に迄も知らせずに置く必要はないであらうと云ふ問題が生じます、一般に醫師はたとへ患者には直接之を知らせないでも、家族から聞かれた時には多く之を知らせるものでありますけれど、時としては之を知らせないことがありますから、前申上げまし

た様なことが生ずるものであります、而して患者の家族に對しては病狀を明に告知すべき筈であるにも係らず、偶〻之を知らさないと云ふことは、主として醫師開業上の掛引によることでありますから全く醫師の不德義であるかの様に解釋せらるゝことがありますけれど、斯く成り行く事情を顧みれば強ち醫師のみを責むべきものでもないかと思はれます。

或患者が甲なる醫師の診察を受けた時に、それが普通の病氣であるならば、多くの場合に於きましては其病氣が治癒するまで其醫師の診斷治療を受くるものであります。然るに此際甲なる醫師がその患者は肺結核に罹つて居るのであるから、充分に注意せねばならぬと云ふ事を告げました際には、患家の方では非常に心配して、斯る重症な病氣であるならば獨り甲の醫師の云ふことだけを信用する事は出來ぬとか、又は自分は肺病の様な心持ちはせぬのに肺病と云ふのは何かの間違ではないかと云ふ様な考へから、更に去て乙なる醫師の診察を受けることになります。其際乙なる醫師も同様に肺結核であると云ふことを知らすればよいのでありますけれど、乙なる醫師が狡猾な人であつて、故意にこれは肺結核ではないと云ふ様なことを申ますと、患者は却而乙なる醫師の云ふことを信じ、引續き乙醫師の診斷治療を受くるのみならず、甲醫師は誤診せりとて惡聲を放つことがあります。若し又乙醫師も其患者が肺結核に罹つて居ると云ひますれば、患者は更に去つて丙なる醫師を訪ひ、其處でも同じ診斷を受くるに至つて始めて自分が肺結核に罹つたものと覺悟を致しますけれど、其際再び甲醫師の處へ行つて其治療を受くるかと申ますに、多くの場合にはそうでなく、診斷は何處も同じであるからと云ふて、最後に診察を受けた丙醫師或は其他の醫師の診察を受くることになります。斯くして甲なる醫師は其診斷を明示した爲に一人の患者を失ふことになります。開業醫師は一つの職業でありますから、患者の數の少きを喜ぶ

人は稀であります。夫故斯くの如くにして徒に患者を失ふが如き苦き經驗を屢々味ふ事によつて、醫師の方では肺結核の初期であることを速に患家に知らせるのは、自分では其患者を逸し唯他の狡猾なる醫師の懐を肥すに過ぎぬことである、患者に對する治療さへ充分に施せば、たとへ之に病名を告げても告げないでも病勢にはさしたる變りのある筈はないから、治療だけは充分にせねばならぬけれど、病名は寧ろ告げない方が得策であると考へらるゝも強ち無理からぬことではないでしようか。

夫故患者が醫師の診察を受けた際に、醫師が其患者に對して肺結核ではないと云はれた場合でも、疑はしいと思はるゝ時は、其家族が又は親戚のものより一應醫師の意見を尋ぬることも必要であります。又其病氣が肺結核であると云はれた際には種々の迷ひ心を起すことなく、其醫師の命せらるゝ儘に充分なる治療をするが何よりもよきことゝ思ひます。然し醫師とても神ならぬ身の必ず誤診がないとは申されませんから、若し甲の醫師の言ふことだけで信用が出來ぬとならば、乙或は丙の醫師の診察を受けるのもよいでしようけれど、此等の醫師がみな同じ意見であつたならば、最も多く信用して最初の診察を受けた甲醫師に就て治療を受けらるゝが順序だろうと思ひます。然し其内の或醫師が自分も肺結核と診斷し且他の醫師がそれを患家に告知したと云ふことを承知しながら、故意に之を否認するが如きは議論の限りではありません。

私は斯く申ましたとて、決して醫師又は患者のせらるゝことがよいとか又は惡いとか云ふのではなく、唯醫師と患者の間に意志の疎通せぬのは、斯る事情の下に生ずることがあるから大に夫等の事を顧慮し、醫師は成るべく患家に對して誠意を盡し、又患者は出來るだけ醫師を信用せられて、斯る不祥事の發生を未前に防がれん事を希望する次第であります。若し機會がありましたならば、斯る事例に就て時々御話申上げたいと思ひます。

精神と身體の健康（六）

醫學士　渡邊房吉

我々人類の病氣には、器質的の病氣と、機能的の病氣との二つがあります。器質的の病氣とは人體を組織して居る機關に一定の變化があるために生ずる病氣で、たとへば外科的の諸病、傳染性の病氣、遺傳若くは非衛生的の生活關係から生ずる病氣などであります。機能的の病氣とは身體の組織及び機關には何等の著しい變化も無くて起る所のもので、「ヒステリー」とか、神經衰弱とか、或は器質的病氣の經過中に現はるゝ精神症狀のやうなものであります。器質的の病氣は近來著るしく進歩した理化學的その他の方法によつて治療すべきでありますが、機能的の病氣は一定度までは精神の力で之を防ぎ、或は之を輕快若くは治癒せしめ得るものであります。

世の中に病氣ほどいやなものはありませんが、さりとて人類は餘りに病氣を恐れ過ぎると云ふ傾きはありますまいか。取り別け教育のある上流の人士に、此傾きが多くはありますまいか。動物にも病氣はあります、然しながら同じ病氣でも人類の病氣は動物の病氣よりは重く、強く、高度であるやうであります。之は何故かと云ふに、人類は動物と異り、病氣の程度に相當して憂ふるに滿足せず、更に恐怖や、驚愕や、配慮や、心痛や、空想や、取越し苦勞などの暴風を我と自ら煽り立てて、病勢をつのらせるからであります。畢竟は自ら放火して自ら騷ぎ、而して自ら燒けて居るからであります。

近代になつて此種の燒死者が益々多くなつて來ました。燒死しない迄も此種の原因で精神的火傷を受ける者が其數を增して來ました。同じ病氣でも昔よりは之を感ずることが鋭敏になり、之を恐るゝの度が強くなつて來ました。之は強ち病理が明瞭になり、罹病の徑路がわかつて來たばかりではありません。文明のために總ての人の感覺が餘りに鋭敏にあつたからで、之が非文明の時代との著るしい相違であり

ます。故に精神の過勞、引いては機能的病氣の增加は、文明の餘弊と云つてよからうかと思はれます。一寸のことでも之を廓大して感じ、之を細分して感じ、青い顏をして、ワナ〳〵しながら、藥餌と處方とを携へて、病魔の逆鱗にふれまいと世の中を恐る恐る過ごして行く有樣は、文明人でなければ見られない圖であります。

我々は健康の戰士として疾病の勝利者たるべく、斯る恐怖を去り、泰然として驚かざるの度量を養はなければなりません。之を養ふには能く病氣の性質を知り、公平に之を觀察し、又外界の影響の人體に作用する途と方法とを熟知しなければなりません。

大海の波上に流されて居る一葉の小舟は、水のまにまに漂蕩し、風のまに〳〵動搖されて居ります。我我が世の中に生きてゐて外界の影響に驅らされて居るのは、全く之と同じであります。小舟にして西に流れんと欲しても、風と水とは之を東に追ひやります。我々にして外界の作用を免れんとしても、それは到底駄目であります。たとへば過熱された空氣は我々の筋骨を弛緩されて、我々を懶惰怠慢に陷らせます。過冷の溫度は我々に壓迫性に働らき、我々を悲哀的ならしめます。強き銳き光線は我々を疲勞させます。烈しき高き雜音は我々の神經を弱らせます。我々の末梢神經は調和した適度の刺戟を受ける時に、快く之を感受するものでありますが、不統一な過度の刺戟を受ける時には苦痛の印象を與へられ、著るしく疲勞するものであります。是等の身體竝に精神の疲勞は、神經中樞を侵して病的狀態をひき起すものであります。

云ふ迄もなく外界の事狀は我々の五官器によりて認知され、次で其影響を受くるものでありますが、殊に特別な注意により更に強く認知されるものであります。換言れば特別に深く注意すれば特別に明に外界の事情が認知され、特別に強く其影響を蒙ると云ふわけであります。之を反對に云へば、我々の注意の度次第、或は我々の考へ次第で、外界の影響を

或度までは防ぎ、或は之を弱め得ると云ふわけであります。故に我々は精神的に外界の影響より免れ、之に由て起る病氣を一定度までは豫防し得るわけであります。

要するに、

(一)人には器質的の病氣と機能的の病氣があります。

(二)機能的の病氣は一定度迄は精神療法によりてなほります。

(三)文明人は自ら病氣をつくり、自ら病氣を重くして居ります。

(四)外界の影響に原因する病氣も、一定度までは精神作用により豫防することが出來ます。

(未完)

育兒

衛生育兒 茶話

石橋臥波

◎やつと、門齒が生へかゝつた位の幼兒に、固形物を喰はせたい親心から、自分の口に入れて齒でかみくだいて、それを幼兒の口に入れてやるのは、中流の家庭でもよく見受けるのであるが、之を衛生の上からみると、實に危險なことは、いふまでもないがこれが、また實に、未だ我國の國民一般――家庭、主婦、母たる人々に、衛生思想の發達して居ない、普及して居ないことを證明せられる習俗であるといつてよからう。誰しも、自分に、病毒があるとは氣づかないにしても、しかし、恐るべき病菌が潛んで居て、それが、母親の口から幼兒の口へ移入すること

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

が無いともはかれない。

◎文明が人を弱くするのは事實である。太古の人類が、雨露を凌ぐ家屋、身體を養ふ食物の粗末であつたのは勿論のこと、身體の溫度を調節する衣服にしても、質に粗末で單純なものであつたのが、今日では、家屋、食物、衣服が、何れも立派で複雜になつて、家屋の如きも、冬でも寒さを知らず、夏でも暑さを知らざる程度のものが少なくない、衣服でも、嚴冬には、六七枚も重ねたり、少しづゝ時候のかはるにつれて、様々な地質のものにかへたりする、衣服住居が、そのやうであるから、食物なども、牛乳でなくては滋養が少ない、やれ鷄卵を食はなければ弱わる。肉類――特に牛肉を食はなければ、蔬菜ばかりでは不可ないなどと、隨分、萬事に注意するやうになつたのは、衞生が進んだ結果によるものもあつて、喜ぶべきではあるが、しかし、之がために、人間の身體は段々弱くなつて來つゝあるのは確かな事實である。そこで、お醫者が段々繁昌する。岡田式靜坐法が大に歡迎せられる。病氣は段々種類が殖えて來る。此に於てか、大に疑問を生ぜざるを得なくなつて來る。予は、いつも、鷄卵の半熟の白みを食つては消化がわるいといつて、黄味ばかりをすくつて食はねばならぬと敎へられるごとに、人間――今の人間は、これ程までに胃が弱いのかと、いつも歎息するのである。仁丹の廣告に、二六時中、仁丹を離されないやうに衞生に注意せよと書いてある。食後にも、勉強にも、浴後にも、休憩時にも――實際、仁丹を「ポケツト」から取り出して、かみくだいて居る紳士淑女を、電車の中でも、よく見受けるのであるが、これを見るたびに、今の人間は、藥から離れては、無病壯健なることは出來ないことを歎息するのである。

こゝに於て、予は今の衞生は、まだ、國民に徹底して居ないのではあるまいか。衞生の半面のみを聞いて、未だその半面を知らないのではあるまいか。と考へざるを得ないのである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

今の多くの人たちは、身體の方面ばかりに氣をつけて、精神が身體と密接の關係があることを忘れて居るのではあるまいか。熱性患者が、僅かの事を聞いても直ぐ熱が高くなるのは、誰しもよく知つて居ることである。そこで、肉の衞生と共に、心の衞生に注意することが肝要である。生存競爭の激烈になるにつれて、この心の衞生は益〻必要を感ずるのである。而して、心の衞生の秘訣は、樂天的生活である物事に餘り心配せず、天命だとあきらめて生活することである。感情生活が主になつて居る婦人には特に、この樂天的生活の工夫が肝要である。症候の一變化ごとに、胸を痛め、熱の一上一下に氣を揉み少しの病を、自分の心で案外大きな病氣にしたりする弱點をもつて居る婦人には、ことに、この樂天的衞生法が必要である。昔、江村専齋が、無病壯健で長命であつたので、或人が、その養生の法を聞いたら、飲食も、滿腹する程せないで、鶏の胃の如く八九分位にし、思慮することも些、攝生に心を用ひることも亦些、この些が自分の養生の秘訣であるといつたといふことであるが、これは實に至言である。今の人は、衞生の學理を聞くと、それに注意することが度に過ぎて、神經過敏に陷り、他の一面を顧みないで、却つて不養生をすると同じ結果をもたらす傾向があるたとへば、傳染病患者に近づくと、病菌が移るといつて、之を避けるのは、必要であるが又、他の一面には、餘り病菌を恐れると、之がために、精神作用によつて、身體細胞の病毒に抵抗する力を弱くして、無頓着なものよりも、却つて、病毒に冒され易くなるといふことを忘れる如きは、その適例である。實際東京驛の如き雜踏するところの空氣中には、一寸立方の中にでも、數へられない程の病菌は常に飛散して居て、そこに往くものは、誰も之に觸れて居るのであるが、それが悉く病人にならざるは、全く、細胞の抵抗力の弱いと強いとによることを思へば、無頓着は、不攝生のやうで、實は攝生を重んずると同じ結果を收めることが出來るの

である。この抵抗力を強くするには、一つには、心の力によるもので、他の一つは、皮膚は、外氣により、胃は食物によつてならす如き方法である。常に溫度の加減を身體の溫度に適するやうに調節することは出來ないから、或は微溫湯に布片を浸して、身體を拭ふたり、つとめて外氣に皮膚をさらしたりすると、感冒などにかゝることが少なくなるのは、皮膚の抵抗力を強めるからである。時々、常食よりも量を多くしたり、好むものであつたら、不消化物でも――鷄卵の白味でも何でも、選ばず食して、胃の抵抗力を強くするなどは、何れも、この方法に屬するのである。之を要するに、肉の衛生と共に心の衛生につとめ、滋養分を攝取し、病毒を防ぐ工夫と共に抵抗力を増進する方法に注意するのが眞の衛生法である。如何となれば、衛生の最後の目的は、身體の壯健を催す積極的のものであるからである。

◎酒と煙草は養生に害あり、禁酒會長安藤氏の故夫人は、永い間の心づくしで、良人安藤氏に禁酒を勵行せしめるやうになり、又同夫人が、他の人に禁酒をすゝめて、二十年も怠らなかつた美談は、かつて、聞いて居たが、これと同じ談が、實は自分の身の上に來ようとは思ひもよらなかつたことである。その筋の一端は、かうである。予は年來、大の喫煙家として、知己の間には知られて居るのであるが、先頃、お茶の水の卒業で、今は地方の女學校に教鞭を執つて居る某女史から、手紙が來たその中に「それから、私は先生に、前々から申かねて居つたお願があるのですが、聞いて下さいますか?」かういふことが書いてあつた。予は、遠慮には及ばないから早速、いつて來るやうにと、返事を出した、すると數日の後次の返事に接したのであつた。

先生の一日の中、午後一時から三時の二時間の間を、私にいたゞきたいのです。いたゞくと申しますのは、其間丈、先生の最もお好きな煙草を止めて居つていたゞきたいのです。

私は、このため、先生から、お怒りを受けても、

よろこんで受けます。私は先生がお出しになるケムリを、いつも悲しく眺めて居りましたのです。私は一時にすべてとは申しません。二時間丈どうぞ止めて見て下さいまし。

この手紙に接した刹那、予は、實に嬉し涙にむせんだのであつた。彼の女史は、嘗て、その恩師が病のために、大學病院に入院せられた當時は、毎日、病院に通つて――面會をせない時は看護婦に就いて容體を聞いて、時々、予にその手當のことに就ても注意をしてくれて、之がために、一時氣遣つた病狀も、遂に順調にいつた程であつた。彼女史は「クリスチヤン」である。熱烈な信仰といふよりは徹底した信仰をもつて居る、此信仰から湧き分る同情、愛であるから、誰でも之に觸れた時、感謝の念を起さずには居られない、予は、この手紙に接してからは、その間は禁煙を勵行することにした、そして、ゆく〱は全く禁煙しようと思つて居る。命ぜられても、叱られても、止められない、そして、それが健康に害があることは、十も百も承知して居り乍ら、止められなかつた喫煙が、この女史の情けによつて始めて止められるのである。至誠は人を動かすこと、かくの如きものがある。世の妻たる人々は、どうぞ、その良人に、このやうな情けを以て酒と煙草とを止めさせてもらひたいものである。獨り酒と煙草ばかりではない、よくないと思つたことは、誠をつくして止めさせてもらひものである。

子供の眼（承前）

莊司秋次郎

尙は眼瞼の病氣で屢々小兒に見るものは眼瞼緣炎といふものでありまして、これは輕いものは多少眼瞼の緣の處が赤くなり睫毛に乾燥した眼脂の粉のやうなものが附着するものであります。稍々重症になりますと、分泌物の爲に睫毛が五六本づゝオケシの樣に束になり、其根本の處に凝まつてゐる痂皮を剝し

て見ますと睫毛の根の周圍が潰瘍になつて居て、その潰瘍の中央から睫毛が生えて居ります。

この眼瞼緣炎がありますると子供は眼をしぱしぱして、僅かの事でも涙をこぼし、疲勞し易く、絶えず眼をこすつて益々惡くするものであります。これが長い間治癒りませんと、眼瞼が厚くなり、睫毛が處處無くなり、甚しいのは殆ど全く無くなつて仕舞ひ、只僅かに細い元氣のない睫毛が行儀惡く生えて甚しく容貌を損なふものであります。而かも一旦斯樣になれば一生涯恢復することは出來ませんから、特に女の子などが眼瞼緣炎に罹つた場合には早く治療しなければなりません。隨分頑固なこともありますけれども、割合に能く治癒るものであります。併しこれは矢張腺病質といふやうな身體の餘り强壯でない小兒、皮膚の軟弱な小兒が罹り易いので、從つて再發し易いものでありますから、一般に身體を强壯にするやうに努むることが必要であります。

もう一つ小兒が時々罹る眼瞼の病氣は、何人も御承知のモノモラヒであります。併しこのモノモラヒの中にも種々のものがありまして、普通の癤腫の如く眼瞼の皮膚の脂を出す腺又は毛の根の處に膿を持つものがあります、即ち麥粒腫と申しまして、赤く腫れて疼痛も强く、往々眼瞼全體が赤く腫れて、下眼瞼に出來た時には頰の方までも腫れることがあります。殊に小兒に於ては甚しく腫れて驚くことがあります。併しこれは切開して膿を出して仕舞へば二三日で治癒ります。構はずに置きましても大抵四五日たてば自然に破れて膿が出て、腫脹も退きますけれども、何うかすると皮膚に醜い痕を殘すやうなことがありますから、最初一日二日冷して腫脹が退かず却て增すやうであれば早く切開した方が良いのであります。

他の種類のモノモラヒに霰粒腫といふのがあります。これは眼瞼の內を通つて緣の所に口を開いて居るマイボームの腺と云ふのが幾個もありまして、睫毛の根本の前の所に點々と並んでゐるのが即ちその

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

出口でありますが、これが塞がつて固く膨れる、或は膿をもつのもあります。急に腫れます時には矢張疼痛があつて眼瞼の皮膚も赤く腫れ、遂には皮膚の方又は裏側の結膜の方に破れます。併しこれが慢性に出來て參ります場合には格別疼痛もなく只指で觸つて見ますと皮膚の下に豆のやうに觸れ、稍々大きくなりますと瞬目するときに邪魔になります。而して放擲つて置きますと大抵は漸次縮小なるものでありますが、何時迄も無なりません。のみならず屢々再發するものであります。それでありますから霰粒腫は切開して、その固くなつて居る殻のやうなものを掻除て仕舞はなければなりません。薬を注射して手術すれば格別痛いものでもありません。

眼の外側の病氣に就ては先づ此位の事に致しまして最後に屈折異常、即ち近視とか遠視とか云ふものに就て一言申上げる必要があります。

近視とか遠視とか云ふ屈折機の異常は、十歳以下の小兒に於ては氣付かれぬ場合が多い。これは大人のやうに細かい物を注視せねばならぬ必要もなく、又その度も初から高度のものでなく、大抵漸次年と共に強くなるからであります。尚ほ小兒の眼は大人よりも調節の無理がきゝますから、大人なれば當然遠視の症狀を呈すべきものも、小兒は自分の眼で以て眼鏡を掛けた同種の調節をして間に合はせて居ります。それが間に合はぬ程度に進むで初めて頭痛がするとか、胸が惡いとか、能く視えぬとか云ふ故障を訴へるのであります。學校に於きましても毎年體格檢査の際に眼も檢査致しますが、十歳以下の小兒は單に外眼疾患の有無のみを檢査して、特別に視力に於て檢査致しませんから、「トラホーム」の如き一見して認むることの出來る眼疾の外は、近視でも遠視でも皆「眼疾無し」と記入されるのであります。併し能く黑板の字が視えないと云ふので特に前の方の席に移されてゐる生徒が居ります。斯様な生徒は大抵成績も良くない。これは敢て頭腦の惡い劣等生ではありません。近視、遠視又は亂視等の屈折異常が

ある爲に、學課を學ぶ時に容易に眼が疲勞し、頭が重くなり、一體に精神が不快でありますから、學校は面白くない、學課は厭なものになるのは當然であります。それを强ひて勉强させられますから神經衰弱のやうな症狀を起し、益々成績は不良となります。それでも尙ほ氣がつかずに勉强が足りないからだとか、元來鈍物だから他の子供よりも一層下調、複習を嚴ましくやらせねばならぬと云ふやうな主義で敎育されます場合には、哀れ此の小兒は遂に眞の鈍物となり了るでありませう。然るに偶然この成績不良の學校嫌ひの豚兒に近視、遠視或は亂視等のあることが發見せられ、適當の眼鏡を處方せられますと、昨日までの劣等生或は低能兒視されてゐたものが忽ち今日の優等生と變じその擧動竝に精神狀態までも丸で變つた活潑な兒童となることがあります。

斯樣に幼少の時から屈折異常の認められる小兒は大抵遺傳の關係がありまして、父、殊に母親の方に高度の近視などのある場合が多いのであります。而して斯樣な遺傳の關係のある屈折異常は、度が進み易く且つ高度に達するものが多いのであります。中學校或は高等學校位になつてから起る所は所謂學校近視と稱せられるやうなものは大抵輕度のもので、中等度以上に進むことはありませんけれども、この小學時代に認められるものは、どうも性質が良くないものでありまして、年と共に又學級の進むに從つてその度が强くなり、遂には眼鏡を以ても充分に矯正することの出來ないやうな高度のものとなる場合が少なくないのであります。

この近視又は遠視と云ふやうな屈折異常は、一旦これが起れば殆ど恢復することは困難しいので、その度が進まなければ先々結構としなければならぬのであります。それで可及的早く異常を發見して適當の眼鏡を用ゐしむるのが唯一の治療法で、又度の進むのを防ぐ豫防法であります。然るに如何なるわけか世間には眼鏡を掛けると却つて度が進むと云ふ事が

非常に廣く言ひふらされて居るやうであります。これは恐らく昔、眼科の進歩しなかつた時代に屈折機の狀態も檢査せずに、銘々勝手に好い加減な眼鏡を用ゐて、却つて惡くした所から斯樣な說が出たのではあるまいかと想像して居りますが、屈折機の異常を矯正して、正常の眼と同樣に働けるやうにして惡いと云ふ理屈は決してない筈であります、小兒、殊に親に高度の屈折異常のある小兒は、特に此點に注意して、少しく異常がありさうに思はれたならば早く檢査して、適當の眼鏡を裝用せしむるのが第一の豫防法であります。その證據には彫刻師とか時計屋とか細かい仕事をする人は、形の大きく見える凸面鏡を用ゐますが、彫刻師とか時計屋とかには却て近眼が稀れだと云はれて居る事實でも分かります。故に自分勝手に好い加減な眼鏡を用ゆることは愼まなければなりませんけれども、眼科醫に就て屈折機を檢査した上に適當な眼鏡を處方してもらふことは是非必要なことであります。

近年學校の生徒に近視者が漸次多くなり、徵兵檢査の際にも近眼の爲に不合格となるものが非常な勢で多くなつて來ると云ふことは實に憂ふべき現象であります。而かも斯樣な狀況で男にも女にも近眼が多くなれば、今にも申しましたやうにその子孫にも高度の或は惡性の近視者が多くなつて來るわけでありますから、國民衞生上の大問題であります。それでこれは特に敎育義務のある人々の御注意を促す次第であります。

家庭衞生

若葉さす頃

千木庵主

春深き野へのけしきと見しはこに
緑はやさの木末なりけり　（寂蓮）

苟も生活してゐる以上、幸福に生活せんと欲する

以上は、何時でも何處に於ても衛生と云ふ事を等閑に附するわけには行かぬ。花の頃はどうでも宜しいが若葉の頃は特に衛生が大切だと云ふのでは決してない。花の頃には花の頃の衛生があり、若葉の頃には又若葉の頃に多少特有な衛生上の心得があらうと云ふまでのことである。

第一氣候について云へば、今日此頃は一體に天候が定まらず、昨日は袷でも暑かつたかと思ふと今日は又綿入に羽織でも寒いと云ふ調子である。空氣の濕量は多くなつて來て居る。

斯様な氣候の際に最も過敏に影響を感ずるのは僂痲質斯のある人である。それから神經衰弱症の人、即ち血の道とか、頭痛持などゝ云ふ類の人は孰れも症狀の增惡する傾がある。金があり暇がある人ならば溫泉場などへ行くのが最も適當と信ずる。左樣な呑氣な贅澤なまねの出來かぬる人は宜しく天氣の好い日に郊外散歩を企つべきである。溫浴、按摩は此種の人が利用し得べき我國の二大重寶であると思ふ、極めて廉價で非常に有效である。

昨今は未だ飲食物の腐敗を恐れるほどのことはないが、そろ〳〵黴菌繁殖全盛の時期に近づくから、多少の用心が必要である。總て黴の生える處のあるものは何に限らず、此時期に於て乾燥して始末をして置けば、土用干の時に開けて見て、おや〳〵などと喫驚する必要はないのである。

黴菌類ばかりではない、蚊とか、蠅とか、蚤とか云ふ類の吾々の敵共も昨今密かに攻撃を計畫して居る。宜しく彼等に先じて、その機を制さなければならぬ。即ち孑々のわくやうな泥溝を浚へ、蠅の生ずる牛馬の糞を取除き、蚤の繁殖する疊の下の塵埃を掃ふことが必要である。

凡そ右の流儀に準じて家庭の衛生法を實行することに努むるならば、別にむつかしい事をいはずとも殆ど常識に依て自ら衣食住の衛生は遺憾なく行はれることゝ信ずる。

尚ほ時節柄新鮮な種々の野菜、果物などが澤山出て

來る。皆以て適當に利用して血を清うし、骨を強くするに足るのである。
更に天氣晴朗、暑からず寒からぬ日には、餘程大事な仕事も打棄てゝ綠野の間に逍遙し、新鮮な空氣を胸一杯に呼吸する價値がある、殊に小兒を伴ふて郊外に出るのは何よりも結構なことである。これは特に都會に住むで居る人、就中都會に住むで居る小兒の爲に希望する所である。



雜報

○赤十字社總會

去る六日午前九時半より日比谷公園に於て第二十四回赤十字社總會を擧行し、　皇后陛下の行啓あり、左の御令旨を賜ふ。

茲に日本赤十字社第二十四回總會に臨み親しく各員を見るを喜ぶ本社の事業年を追て發展し嚮に歐洲へ派遣したる救護員は最も良好なる結果を收め今や其任務の終了近きにあるは深く滿足するところなり尚將來社業の益々盛大ならん事を望む。

○慈惠會へ行啓

皇后陛下には去る十三日午後一時三十分宮城御出門、芝區愛宕町なる東京慈惠會の總會に行啓あらせられたり、諸般の報告、同會養成看護婦二十名の卒業證書授與あり、陛下には御休憩中三室戸主事及び女官を同會病院に御差遣の上、患者百五十八名の御慰問と共に各自に御菓子料金壹圓宛の御下賜あり患者何れも殊恩に感泣せり。

○新女醫

去月十七日より二十二日まで東京及熊本京都に於て擧行の醫術開業後期實地試驗に及第したる女子は左の七名なり。

鈴木きやう（靜岡）△川並文子（岐阜）△廣瀨シゲ（福島）△奧山登子（東京）△星合ゆきゑ（德島）以上東京にて應試△松浦タ子（奈良）△長岡エツ（大阪）以上京都にて應試。

○日本看護婦招聘

香港政府にては、本國戰役の爲め英國看護婦の歸國

したるもの多き爲め、今井領事を介して日本看護婦の雇用方を同仁會に交渉し來れりと。

○遣露救護班歸朝

一昨年十月出發露國に派遣されたる日本赤十字社救護班の一行二十名は去月二十五日ペトログラードを引揚げ、西比利亞經由にて去る十三日歸朝。十五日午前十一時より赤十字社内に於いて解散式を擧行せり。

廣告

○大日本婦人衞生會音樂會

私立大日本婦人衞生會は事業發展の爲め基金增殖の一助として例年の總會及び懇親會に代へ去る十四日午後十二時半より神田區一ツ橋通り共立女子職業學校大講堂に於て音樂會を開催したり、當日は總裁東伏見宮妃殿下にも御臺臨あらせられ、會長鍋島侯爵夫人、副會長濱尾男爵夫人及び其他の諸役員を從へ御著座あり、直ちに第一部西洋音樂を開演し、引續き第二部に移り喜升、東廣、呂昇の義太夫何れも大喝采裡に演了、殿下にもいさ御滿足の趣にて午後五時歸邸相成りたるが、聽衆約一千名頗る盛會なりき、當日出席の役員は左の如くなりしが、孰れも各受持の係に付て勞せられたり。特に本會事務員藤村晴子女史は諸般の用務に關し多大の勞を取れたるは何時もながら役員竝に會員の感謝する所なり。

鍋島會長　濱尾副會長

鳩山春子　高木鎌子　服部繁子　土肥多越子

濱田捨子　緒方悅子　岡田とし子　小川孝子

高橋孝子　田村きよ子　中濱芳子　松平正子

小松いさ子　近藤惠子　天野多喜子　岸澄子

菊地桑子　三宅藤子　宮本樂子　（いろは順）

尙ほ當日左の寄附ありたり。

一金貳拾五圓

右は總裁東伏見宮妃殿下より

一金貳圓　大澤岳太郎殿　一金貳圓　足立寛殿

一金壹圓　津田梅子殿　一金壹圓　田中こう子殿

其他の寄附竝に詳細の狀況に就ては本誌來月號に報告すべし。

○轉居

四谷區永住町二へ　小瀬よし子

本郷區曙町十六番地ろノ五號へ　芳我皆子

私立大日本婦人衛生會役員氏名

總裁　東伏見宮妃周子殿下
會長　侯爵夫人　鍋島榮子
副會長　男爵夫人　濱尾作子

（いろは順）

幹事　鳩山春子
同　岡田德子
同　山本多穗子
同　松平芳子
評議員　羽田三緒子
同　服部繁子
同　西升子
同　緒方悅子
同　小川孝子
同　片山龜子
同　高橋孝子
同　鶴原誠子
同　中濱芳子
同　子爵夫人　松井正子
同　小松いさ子
同　天野多喜子
同　菊池米子
同　宮本樂子
同　守屋千代子
同　長谷川仲子
同　高木鑠子
同　三浦牧子
同　濱田捨子
同　仁禮壽賀子
同　土肥多越子
同　岡山とし子
同　男爵夫人　加藤鈴子
同　丹波貞子
同　田村きよ子
同　男爵夫人　南部限子
同　山口貞子
同　古市幸子
同　伯爵夫人　阿部篤子
同　岸澄子
同　三宅藤子
同　宮下咲子

婦人衛生雜誌代價及廣告料

代價

一冊　定價金貳拾錢　郵稅壹錢
三冊（三ヶ月分）　前金郵稅共　金四拾五錢
十二冊（一ヶ年分）　前金郵稅共　金壹圓八拾錢

廣告料

一頁六十二行　一行二十三字
壹頁　金五圓　半頁　金貳圓五拾錢
○特別廣告　壹頁金拾四圓　半頁金五圓
○半頁以下行數ヲ以テ計算スルモノハ一行貳拾五錢

規定

○本誌講讀申込ノ節ハ前金三ヶ月分以上本會事務所宛ニ送附セラルベシ但シ見本ハ郵券ニテ貳拾壹錢代用苦シカラズ○本誌休讀ノ節ハ速カニ報知セラルベシ通知ナキ分ハ講讀者ト見做ス但シ後金ニハ割引ナシ○轉居ノ節ハ新舊宿所通知セラレタシ

大正五年五月十七日印刷
大正五年五月二十日發行

編輯者兼發行者　東京市本郷區駒込千駄木町五十八番地　莊司秋次郎
印刷者　東京市本郷區駒込林町百七十二番地　櫻井新三郎
印刷所　東京市本郷區駒込林町百七十二番地　杏林舍

發行所　東京市麹町區富士見町二丁目三十二番地　私立大日本婦人衛生會事務所

賣捌所
東京市本郷區龍岡町　吐鳳堂
同市銀座四丁目　東海堂
同市京橋區鎗屋町　東明堂
同市本郷區本富士町　明文館
同市同區春木町　南江堂支店
京都市寺町二條南入町　若林茂一郎
東京市日本橋區吳服町　北隆館
同市神田區表神保町　東京堂
同市本郷區本富士町　盛春堂
名古屋市榮町六丁目　丸善書店

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

吉村博士發見

祛痰鎭咳新劑

ブロチン
BROCIN

100錠 ￥ 0.90

ブロチンは醫學博士吉村喜作先生の發見に係る最新劑にして本邦産 Rosaceae 中 Prunus 屬植物より抽出したるものなり祛痰鎭咳の作用顯著にして從來の祛痰劑の如く粘膜を刺戟せず又不快の味なきに由り小兒も好で服用す、加ふるに食慾不振、嘔氣嘔吐等の胃腸障害其他の忌むべき若くは危險なる副作用を伴はざるは本劑の特長なり。

適應症。 急性、慢性の呼吸器疾患にして咳嗽喀痰を伴ふ諸症、例へば肺結核、喉頭結核、氣管支炎、喘息、百日咳等。

用量。 大人は一日三・〇—六・〇瓦、錠劑（一錠〇・五）六—十二錠、尚增量するも可なり。
小兒一歲は一日〇・五—一・〇、一歲以上一日一・〇—三・〇。

用法。 用事熱湯又は溫湯に溶解して與へ又は水劑として處方せられたし。

東京室町三丁目 三共株式會社

秦醫學博士の嚴密なる動物試驗を經て販賣する

アルサミノール
Arsaminol

六〇六號（子オアルサミノールも今回發賣せり）

帝大教授鈴木博士指導の下に當社が製造に著手したるアルサミノールは蝟集滯積せる注文に追はれ、供給の數量之に伴はざりしも今回製造規模を擴大し今や漸く大方醫家の需要を充たし得るに至れり。

◎本品はエールリヒ博士と共に六〇六號發見の名譽を擔はれたる秦博士に依りて一々嚴密なる動物試驗を行はれ同博士の證印を得たるものに限り發賣に供するが故に使用上絕對に安全なり。

東京室町 三共株式會社

婦人衛生雜誌第三百二十八號（大正五年五月二十日發行）明治四十三年十二月一日第三種郵便物認可（毎月一回廿日發行）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN